

帝國憲法講義

法學士津久井利行述



緒言

帝國憲法ハ實ニ明治二十五年二月十一日發布セラレタルモノナリ其以前ニ於テハ一個ノ法典ノ体裁ヲナセル憲法ハ我國ニ存セザリシナリ然レド此憲法ノ制定ニヨリテ初メテ我國體ノ定マリタルモノニアラズ人哉此憲法ノ發布ニ依リテ我國體ニ大變更ヲ來シタカ如ク考フルモノアレト是レ大ナル誤謬ナリト云フ

恭テ按ズルニ我國體ノ精華ハ皇統連綿君臣ノ分截然トシテ建國以來二千六百年未タ嘗テ一度モ之ヲ更テクニシテ是レ萬國ニ其比ヲ見サル所ニシテ從テ憲法ノ規定スル所モ亦タ諸外國ノ憲法ト異ナルモノ存セリ憲法正レテ皇統ノ大權ノ如キハ我憲法ノ特質ニシテ我國體ノ諸外國ニ比シテ大ニ誇ルベキモノ存スルニ起因スル所ナリ

忠君愛國ノ精神ハ我國民ノ生命ナリ是レ亦タ諸外國ノ遠ク及ハサル所ニシテ我國體ノ彼ニ異ナルニ起因スト云フヘキナリ我國太古ノ歴史ニ徴スル所ハ我國民ハ祖先ヲ同シクシタル一大血族團體ナリ我國民ノ萬世ニ尊奉スル一天萬乘ノ皇位ハ實ニ其祖先ノ直系ニオハシマシ臣民ハ其子孫ナリ是レヲ以テカ

歷代天皇ノ臣民ヲ慈ミ賜フヲ殊ニ深クアラセタマヒ臣民ハ亦タ孝ノ心ヲ以テ君ニ忠ヲ盡クシ舉國和
 園、温樂嚴肅ナル一大家族ノ狀ヲ呈スルハ是レ我國民ノ忠君愛國ノ精神ヲ養フノ源泉ナリ是レ亦タ諸
 外國ニ見サル所ニシテ或ハ他國人ノ入りテ其主權者トナリ或ハ數個ノ祖先ヲ異ニセル團體カ相集リテ
 一國ヲ組織シタルカ如キ諸外國ト日ヲ同シクシテ論スルヲ能ハサルナリ

此等ノ我國體ノ特質ハ帝國憲法ノ條章中陰ニ陽ニ之ヲ規定シアルヲ認メ得ヘシ思フニ國體ノ精華ヲ
 明カニシ益是ヲ發揮スルハ國民教育ノ本旨ナリ國民ノ德育ハ云フマテモナク智育体育共ニ此ノ大基礎
 ノ上ニ發育スルニアラサレハ以テ其完全ヲ期スルヲ能ハサルヘキナリ

帝國憲法ハ此等建國以來ノ我國體ノ大原則ヲ規定スルト共ニ我國家ハ如何ナル機關ヲ置キ、如何ナル
 權限ヲ此等ノ機關ニ與エテ如何ナル方法ニヨリテ治メラル、カラ規律セリ、此等ノ統治機關及ヒ其作
 用等ニ至リテハ之レヲ近時諸外國ノ例ニ準據シタルモノ實ニ其大部分ニシテ此憲法ノ發布ニヨリテ新
 ニ定メラレ發布以前ニハ是レナカリシモノナリ然レモ是レ亦タ國家統治ノ基礎ニシテ國民教育ノ任ニ
 當ルモノ、明カニセサルヘカラサル所ナリ茲ニ憲法ノ大意ヲ講述シテ諸士ノ注意ヲ冀フノ微意モ亦タ
 實ニコ、ニ存サレモ憲法ノ理論ハ極メテ深遠ニシテ其詳細ヲ此小冊子ニ盡クスハ頗ル難シトスル處
 ナリ加之余ノ不文ハ諸士ニ憲法條章ノ充分ナル良解ヲ與フルニ足ラサル處アルハ竊ニ耻ツル處ナリ冀
 クバ他日機ヲ得テ筆ヲ更メテ諸士ニ見エルコトアランコトヲ

總論

第一、法

憲法ハ一國ニ於ケル法中最モ重要ナルモノニシテ凡テノ法ノ根本ヲナスモノナリ法ハ是ヲ分チテ公法
 ト私法トナズヲ得憲法ハ實ニ其公法ノ一ナリトス故ニ憲法ノ性質ヲ明カニセントスルモノハ先ツ法、
 公法私法ノ觀念ヲ會得スルヲ要ス此等ヲ説明スルハ憲法論ノ中ニ屬スヘキモノニアラサレモ茲ニ其大
 体ヲ講述シテ諸士ノ憲法研究ノ便ニ供セントス

凡ソ法トハ普通ノ意味ニ於テハ事物ノ秩序順序ヲ曰フナリサレハ天然物理界ノ法ハ天然物理界ニ發生
 スル現象ノ秩序順序ヲ示シ人間社會ノ法ハ社會上人類ノ準據スヘキ一定ノ順序秩序ヲ云フナリ是レ皆
 ナ等シク法タルニ於テ相異ナルヲナシト雖モ天然物理界ノ法ハ事物必然ノ關係ヨリ生スルモノニシテ
 人類ノ左右スルヲ能ハサルモノナレモ人間社會ニ於ケル法ハ元來人之ヲ定メタルモノナルヲ以テ人亦
 タ之ニ違フヲ得ヘク人間社會的ノ力ニヨリテ創設變更消滅セシムルヲ得ルナリ余ノ今講述セント
 スル法ハ人間社會上ノ法ニシテ天然物理界ノ法ハ茲ニ論スヘキ範圍内ニ屬セサルナリ

サレハ法トハ人類共同生活ノ秩序ナリト云フヲ得ヘシ凡ソ人類ハ孤立ニ相分離シテ其社會的生活ヲ全
 フスルヲ能ハス勢ヒ相集リ相補ケテ共同生活ヲナサ、ルヘカラス是ニ於テ人類相互ノ間ニ於テ種々ナ
 ル關係ヲ生ス此關係ヲ定メ豫メ一定ノ標準ヲ置キ人類ヲシテ之ヲ遵奉セシムルモノ是レ即チ法ナリ故

ニ法ハ人類ノ生活ニハ必ス存セサルヘカラスル必要條件ナリ文明ノ進歩ハ益々人類相互ノ關係ヲ複雑ナラシムヲ以テ法ノ必要モ亦從テ重大トナルナリ、抑モ社會ナルモノアルハ之ヲ構成スル人類相互ノ間ニ一定ノ秩序ノ存スルアレハナリ人類社會ノ禽獸界動物界ト相異ナルモ亦タ此點ニアリトス故ニ法トハ人類社會ノ秩序ナリト定義シテ可ナリ憲法モ亦タ一ノ法ナリトス即チ人類社會ノ秩序ヲ規律スルモノナリ然モ憲法ハ一國ノ秩序ノ大根本ヲ定メタルモノニシテ凡テ他ノ法ノ基礎トナルヘキ極メテ重要ナルモノナリ

法ト云フ意味ハ前述セルカ如シ故ニ法ハ一國內ノ臣民ハ云フマテモナク官府モ亦タ當然之ヲ奉セサルヘカラス臣民ノ一部分ノミ之ヲ遵奉スルノ義務アリテ他ノ臣民ハ隨意ニ之ヲ背クコトヲ得ルカ如キ法ハ是レナキナリ故ニ法ハ一ニシテ二ナク法ト曰ヘハ一國ノ官府及臣民ノ等シク準據セサルヘカラスルモノナリトスサレトモ法ハ社會ノ秩序ノ如何ナル種類ヲ規律スルモノナルカニヨリテ之ヲ公法ト私法トノ二種ニ分ツコトヲ得ヘシ古代人文未タ開ケサル時代ニアリテハ人類相互ノ關係ハ腕力或ハ天賦ニヨリテ定マリ其腕力或ハ天賦ノ強者カ弱者ニ對シテ權力ヲ擅ニシタリサレト此クノ如クンハ社會ハ終ニ滅亡ニ至ラン是ヲ以テ近時文明ノ時代ニ至リテハ何レノ國家何レノ社會ニ於テモ或ル一種ノ公ノ權力ナルモノヲ認メ一國ノ臣民ハ此ノ公權力ノ下ニ平等ニ服從スルモノナリトセリ個人ハ之ニ對シテハ絶對的ニ權力ナク之ニ服從セサルヘカラス社會ノ公權力トハ即チ主權者ナリ故ニ主權者ニ對シテハ個人ハ

絶對ニ無限ニ之ニ服從スルノ義務ヲ存ス是レ然ラサレハ社會ノ秩序ハ以テ保チ得ヘカラスレハナリ、然レモ個人相互ノ關係ハ平等ニシテ其間ニ權力ヲ以テ相臨ムコトナシ是ニヨリテ見レハ社會ニハ二種ノ關係アリ一ハ主權者ト個人トノ關係ニシテ權力ヲ以テ臨ムモノニシテ二ハ個人相互ノ關係ニシテ平等ノ關係ナリ前者ノ關係ヲ規律スル法ヲ公法ト云ヒ後者ヲ規律スル法ヲ私法ト云フ、憲法ハ法ノ根本ニシテ國家ノ公權力ノ個人ニ對スル關係ヲ規律スルモノニシテ實ニ公法ノ一タリサレト公法ト私法共ニ一ノ法ナリ共ニ必ス之ヲ遵奉スヘキ義務ハ個人ニ存スルナリ唯其規律スル實質ニ於テ前述ノ差アルニスキス元來法ノ二種類ト曰フハ不當ナルヤモ知ルヘカラス法ノ兩面ト見テ可ナランカ

此等ノ理論ハ極メテ深遠ナルモノナレハ今ハ唯タ憲法ハ法ノ中公法ニ屬スヘキモノナルコトヲ述フルニ止メオクヘシ

第二、憲法トハ何ソヤ

憲法ハ國法ノ大原則ヲ定メタルモノナリ一國ニ於ケル各般ノ國法ハ皆ナ其國ノ憲法ノ下ニ存スヘキモノニシテ憲法ノ條規ト矛盾スル法ハ凡テ無効ナリ、即チ憲法ハ一國ニ於テ最モ高キ力ヲ有スル法ナリトス而レモ憲法カ國家ノ大原則ヲ規定スル程度ニ至リテハ諸國ニ於テ異ナリトス或憲法ハ極メテ重大ナル大原則ヲ掲クルニ止マリ他ハ凡テ法律ノ規定ニ任カスモノアリ或ハ憲法ノ條章中ニ極メテ微細ナ

ル事項マテヲモ掲ゲタルモノアリ然レモ國體ヲ明カニシ君臣ノ分ヲ定メ如何ナル機關ヲ設ケテ如何ナル方法ニヨリテ國ヲ治ムルカノ大則ヲ掲クルヲ以テ普通トス諸國ノ憲法皆ナ然リ我帝國憲法ヲ一讀セハ是レ自ラ明カナラン、

人往々ニシテ憲法ハ君主ヲ制限スルモノナルカ如ク思フモノアレトモ是レ我國體ト相容レサル謬論ナリ凡ソ法ナルモノハ君主ノ命令ナリ君主ハ絶對無限ノ權力ヲ有シ如何ナル命令ヲモ臣民ニ向テ發スルコトヲ得、臣民ハ必ス之ニ脱從セサルヘカラサルモノナリ君主ハ法ニヨリテ制限セラルヘキモノニアラサレハナリ加之我帝國憲法ハ天皇ノ欽定セラレタル處ニシテ諸外國ニ見ルカ如キ君主ト臣民トノ約束ニモアラス國際間ノ契約ニモアラサルナリ天皇ノ直接ノ意思ナリ、天皇カ帝國ヲ統治シ賜フニ當リテ其大原則ヲ發表シ賜ヒシニスキサルナリ我帝國ノ憲法ハ天皇アリテ後憲法アルモノナリ憲法アリテ後其憲法ニ恰當スル一人ヲ國ニ入レテ皇位ニ就カシムルノ例ハ外國ニ之レアレト是レト我レトハ同一視スヘキモノニテラサルコトヲ忘ルヘカラス故ニ天皇ハ憲法ノ條章ニヨリテ其統治權ヲ限定束縛セラレタルモノニアラサルナリ、假令憲法ノ條規ハ或ハ間接ニ君主ヲ制限スルノ結果ヲ生スルコトナシトセサレト是レ君主本來ノ意思ニ據ルモノニシテ君主ハ自由ニ其憲法ニ自ラ定メラレタル方法ヲ以テ之ヲ變更改正シ賜フコトヲ得ヘク臣民ハ又タ無限絶對ニ之ヲ遵奉セサルヘカラサルモノナリ

憲法ハ國體政體ノ大原則ヲ定メタル法ナルコトハ前述セリサレモ此ヲ一個ノ法典トシテ定メオラス或ハ

習慣ニヨリ或ハ他ノ法律ニ規定シタル國アリ、此等ノ國ト雖モ一國家ヲ形成シ國體政體ノ確定シアル以上ハ假令一法典ノ形ヲ具備シタル憲法ハ存セストスルモ、憲法ノ實質ハ是レアルナリ一國ヲ形成シタルモノニシテ憲法ノ存セサルモノ是レナシ唯其法典ノ形ヲ具フルモノト然ラサルモノトノ差アルノミ我國ハ明治二十二年二月十一日以來一個ノ正文律トシテ憲法々典存セリ英國ニ於テハ憲法ハ未タ一個獨立ノ法典ノ形ヲ具エス其一部分ハ習慣ニヨリテ定マリ其一部分ハ普通ノ法律ノ中ニ之ヲ定メアルナリ、

前ニモ述ヘタルカ如ク帝國憲法ハ天皇ノ欽定シ賜フ處ナリサレト憲法ハ必スシモ君主ノ定メタルモノニ限ルニアラス或ハ君主ト臣民ト合議約束シテ定メタルモノアリ或ハ數個ノ國家カ連合シテ定ムルコトモアリ此等ト雖モ苟クモ國家ノ大原則ヲ規定スル以上ハ憲法タルニ相違ナシ唯我憲法ト此等ノ憲法トハ其制定者ヲ異ニスノミナリ

以上述ブル處ヲ以テ憲法ノ大體ノ觀念及帝國憲法ノ諸外國ト異ナル處アルヲ明ニシタルヘシ、是レヨリ帝國憲法ノ章條ヲ逐フテ説明スヘシ

各論

第一章 天皇

恭ンテ按スルニ皇位ハ萬世不朽ニ國家統治權ノ存スル處ニシテ是レヲ祖宗ニ承ク故ニ本章第一條ヨリ第十七ニ至ル迄天皇ノ大權ヲ列擧シ是レヲ規定スト雖モ此ノ憲法ノ條章ニ依リテ初メテ付與サレタル者ニアラス只日本帝國固有ノ國體ハ此ノ憲法ノ保障ニ依リ益々永遠鞏固ナラシメ以テ國家ノ隆章ト臣民ノ幸福トヲ計レリ

天皇ナル名稱ハ古來用井來タレル國法上ノ用語ニシテ已ニ大寶令ノ規定ニ於テ是レヲ見ル蓋シ皇位ニ存スル處ノ主權ハ已ニ日本帝國創設ノ際確定シタル者ニシテ爾后幾多ノ星霜ヲ經ルモ未タ嘗テ些少ノ變更ヲ受ケルコトナシ

故ニ天皇ハ此ノ憲法ノ規定ニ反セサル限リハ凡テノ點ニ於テ萬能ナリ何ントナレハ天皇ノ特權ハ本章十七條ニ列擧シタル者ノミノ止マラサレハナリ是レ主權ハ絕對ナリ臣民ノ服從モ亦絕對ナル所以ナリ故ニ吾カ憲法ハ國境變更ノ事貨幣鑄造ノ事ニ干スル規定ヲ欠クト雖モ凡テ此等ノ權利ハ天皇是レヲ有シ給フ事勿論ナリ然ラハ何故ニ十七條ヲ列擧シテ是レヲ天皇ノ憲法上ノ大權トナスヤ曰ハク是レ天皇カ統治器關ノ權限ニ委任セスシテ親裁シ以テ司法立法ノ干渉ヲ避ケントスル國家ノ重大ナル職務ナル故ナリ

第二條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇是レヲ統治ス

本條ノ主意日本帝國國體ヲ定メタルニアラス固有ノ國體ヲ宣言シタル者ナリ凡ソ一國ニハ統治權ノ主体アリ是レニ對シテ亦客體ナル者アリ而シテ國家統治ノ主体ナル者ハ憲法ニ依リテ定マル者ニアラス何ントナレハ統治主體存シテ后憲法起リ憲法ヲ以テ主權ノ處在ヲ定ムルモノニアラサレハナリ

恭ンテ按メルニ神祖國ヲ肇メテヨリ特ニ汚隆アリト雖モ皇統連綿天壤ト極マツナシ而シテ天皇ハ日本帝國ヲ統治シ給フ主體ニシテ國家主權ヲ有シ給フ御方ナリ日本帝國ヲ構成スル國土及ヒ臣民ハ統治ノ客體ナリ故ニ統治ノ及フ處ハ第一ニ國土第二ニ臣民ナリ

大日本帝國トハ境土ト臣民トヲ併稱スルナリ蓋シ國土ト臣民トハ帝國構成ノ絕對ノ要素ナリ單ニ組織スル分子ノミニアラサルナリ故ニ國土内ニ來ル者ハ外國人ト雖モ我統治權ノ客體ナリ亦我臣民ハ國土ヲ離レテモ日本臣民ナリ日本帝國ノ主權ノ下ニ立ツ可キモノナリ

萬世一系ノ天皇トハ皇祖皇宗ノ血統ヲ受ケタル天皇ヲ云フ即チ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承ケサセ給フ御方ヲ云フ、

統治トハ統御ト云フ事ヲ意味シ國家主權ノ意志ヲ表照シ是レニ伴フニ權力ノ制裁ヲ付シ以テ國家ノ目的ヲ達スルコトヲ云フ、

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル處ニ依リ皇男子孫是レヲ繼承ス

恭ンテ按スルニ皇位繼承ニ關スル規定ハ主トシテ皇室典範ノ規定ニ譲リ本條ニ於テ只其ノ原則ヲ垂ル
 ノミ即チ祖宗神武ノ血統ヲ承ケサセ給フ皇男子孫是レヲ繼承スルトノミ定メ爾余ノ規定ハ是レヲ憲法
 ニ掲ケス然乍本條ニ依リテ定マリタル憲法ノ規定ハ勿論皇室典範ノ改正ノ爲メニ影響ヲ受ケルコトナシ
 本條ニ依リテ女子モ踐祚スルコトヲ得ルヤ將タ男子ニアラサレハ皇位ヲ繼承スルコトヲ得サルヤノ二箇ノ
 重要ナル問題ヲ決シタルナリ而シテ皇男子孫トハ祖宗男系ノ子孫ニシテ女子ノ血統並ニ女子ノ皇位ニ
 登ルコトヲ許サス

或ハ曰ハク皇位繼承ハ皇室相續ナリ故ニ私法上ノ財産相續ノ法理ニ準據ス可シト或ハ曰ク皇位繼承ハ
 皇權ノ繼承ナリ決シテ財産相續ニアラスト是レ后説ノ採ル可クシテ前説ノ採ル可カラサルハ自明ノ理
 ニ屬ス何ントナレハ論者ハ皇位ノ地位ヲ知ラサルノ罪ニ坐ス皇位ハ統治權ノ存スル處ニシテ皇室財産
 ニアラサレハナリ

皇位ハ國法ニ依リテ成立セス天皇ハ國法ニ依リテ其ノ權力ヲ傳承セス自立シテ主權者タリ然シテ皇位
 ハ瞬間モ曠クス可カラス天皇崩御スルハ皇嗣其ノ瞬間ニ於テ天皇タリ踐祚ノ式即位ノ大禮ハ皇位ヲ
 承ケルニ付キ國法上何ノ效力ヲモ有セス皇位繼承ニ際シ國家ハ其ノ性質ヲ毫モ改メス君主ノ身上ニ亦
 變更アルモ國家ニ影響ナシ是レ國家主權ノ性質ナリ

第三條、天皇ハ神聖ニシテ犯ス可カラス

恭ンテ按スルニ神代紀ニ曰ハク天地剖判シテ神聖位ヲ正スト是レ遠ク神代ノ昔ニ於テ己ニ確定シタル
 原則ニテ亦各國ノ等シク認ムル處ノ原則ナリ夫レ天皇ハ主權者ナリ日本帝國ヲ統治シ給フ國權ヲ握有
 シ給フ御方ナリ故ニ憲法ニ於テ本條ニ此ノ原則ヲ掲ケルト雖モ主權者本然ノ性質上此ク有ル可キ者ナ
 リサレハ何人モ君主ニ對シ奉リ責罰ヲ加ヘ如何ナル法則モ君主ニ其ノ法力ヲ及ホスコトヲ得ス若シ然ラ
 サルハ君主ノ上ニ尙ホ強力ナル法則ヲ有スル主權者アルコトナリ我ノ所謂主權者ハ眞ノ主權者ニ
 アラサルナリ然ルハ君主ハ主權者ナリ國家ナリト云フ我カ憲法ノ原則ニ反ス法ハ王言ナリ君主カ自
 己自由ノ意志ニ依リテ是レヲ制限スルニアラサルヨリハ決シテ他ノ權力ノ爲メニ犯サルコトナシ主權
 者ハ法律以上ノ者ナリ是レニ法力ノ及ハサルヤ論ナキナリ然乍君主モ亦法則ヲ敬重セサル可カラサル
 モソナルコト言ヲ俟タサルナリ

神聖トバ種々ノ沿革歴史ニヨリ傳來シタル者ナレモ本條ニ於テ神聖ナルコトハ本條ノ主眼ニアラス法理
 上只侵ス可カラサル事ノ意義ヲ規定シタル迄ニスキス犯ス可カラストハ無責任ナリト云フコトニ歸着ス
 然乍無責任ナリト云フコト神聖ニシテ犯ス可カラスト云フ事ト同一ニアラサルナリ然シテ天皇ハ無責
 任ナリトハ公法上ノ行爲ニ對シテ云フコトヲ忘ル可カラス故ニ必スシモ私法上ノ行爲ニ對シ無責任ナリ
 トノ意味ニアラサルナリ即チ宮内省ノ御用ニテ物品ヲ買上ケ其ノ代價ヲ拂ハスシテ可ナル者ニアラサ
 ルナリ國庫ハ是レニ對シ支拂フ可キ責任ヲ有ス

第四條、天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

本條ハ天皇ハ國家ノ元首ナルコト、統治權ヲ總攬スルコト及ヒ此憲法ノ條規ニ從テ之レヲ行フモノナルコトヲ規定セルナリ、天皇ハ即チ我國家ニシテ主權ノ本体ナリ故ニ曰ク天皇ハ國ノ元首ナリト、夫レ三權分立論ハ一時多數學者及政治家ノ大ニ贊同サル、所トナリシト雖モ今ヤ其理論ハ國家統治ノ常理ニ當ラサルコト一般ニ信セラル、ニ至レリ我憲法ハ三權分立主義ヲ採ラス即チ立法權司法權行政權ノ三者ヲ獨立シオルモノト見トメス唯一最高ノ主權者タル天皇總テ之ヲ爲シ給フナリ唯一人ニシテ凡テ裁判シ立法ニ行政スルコトハ事實不能ナルヲ以テ機關ヲ設ケテ之ヲナサシメ其機關相互ノ關係ハ相對峙セシメ相侵スコトナカラシムルノ主義ヲ採リタルナリ例ヘハ大湖ノ水ハ鹿ク數多ノ河流ヲ派出シ各河相離レ方尙ヲ異ニスルト雖モ其水ハ之ヲ湖ニ享クルモノナルカ如シ、サレバ實際國家ヲ流治スルニ際シテハ帝國議會ヲシテ立法ノコトヲナサシメ政府ヲシテ行政ノコトヲ掌ラシメ裁判所ヲシテ裁判ヲナサシムルト雖モ此等政府、議會及裁判所ハ主權者ノ機關タルニ過キス其自身ニ於テ何等ノ本來ノ權力アルコトナシ天皇ノ統治シ給フ方法ニスキササルナリ統治權ヲ總攬スルトハ此意味ナリ諸外國ニ於テハ政府、裁判所議會ヲ各獨立シオルモノトシ行政、裁判、立法ノコトヲ各相分立シテ掌ルノ主義ヲ採レルモノ多シ是レ我國ト大ナル差異アルモノナルコトヲ注意スヘシ

此憲法ノ條規ニヨリテ行フト曰クハ天皇カ統治シ給フニ此ノ憲法人條規ニ從ヒテ行ヒ給フコトヲ宣言サレタルモノナリ天皇ハ自ラ此憲法ヲ制定シ給ヒ其條規ニ從ヒ給フナリ親ラ自由ノ意思ニ依リテ此憲法ノ條規ヲ遵由シ給フナリ是ヲ以テ天皇カ他ノ制限ヲ受ケアルモノナルカ如ク考フルハ誤リナリ主權者ハ絕對ニ無限ナル權力ヲ有シ他ノ制限ヲ受クルコトナシ唯自ラ制限ヲオキ之レニ從ヒ給フモノナリ是ヲ誤解スルコト勿レ

第五條、天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

天皇ハ統治權ヲ總攬シ給ヒ從テ立法權モ天皇ニ存スルコトハ前條ノ解釋ニ於テ明カナルヘシサレト天皇ハ立法權ヲ行ヒ給フニツキ憲法上帝國議會ナル機關ヲ設ケ其協贊ニヨリテ立法シ給フコトヲ云フ、ニ宣言シ給フナリ帝國議會自ラ法律ヲ制定スルニアラサレトモ本條ノ規定ヲオキタルヲ以テ天皇カ立法シ給フニハ必ス帝國議會ノ協贊ヲ經ルコトヲ必要トシ議會ノ協贊ナケレハ法律ヲ制定シ得サル結果ヲ生ジタルタリ然レモ議會ハ憲法上ノ機關タルニスキスシテ天皇立法權ヲ掌握シ給フコトニ於テ何等ノ矛盾ヲ生セサルナリ英國ニテハ議會ト主權者トカ立法權ヲ共有スルカ如キ有様ナリ是レト我トハ大ニ異ナレルモノナリトス

協贊トハ法律案ヲ議決スルコトナリ、唯タ協贊議決スルニスキス立法スルニアラス其議決シタル法律案カ直ニ法律タルニアラサルノ意ヲ示セルナリ協贊ナケレハ法律ヲ制定スルコト能ハサルナリサレト協贊

ハ立法ノ一要件トナリオルニスキス立法權ハ天皇ニ存スルモノナレハ天皇ノ裁可アリテ後初メテ議會ノ議決カ法律タルナリ

第六條、天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命ス

本條ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命スルハ天皇ノ大權ニ屬スルモノナルヲ規定セルナリ是レ亦タ立法權ハ天皇ニ存スルニヨリ生スル當然ノ結果ナリ法律案ハ政府又ハ議會之ヲ提出シテ是ヲ議會カ決議スル片ハ即チ法律案ハ確定シ法律タルノ豫備條件完成ス天皇之ヲ裁可シテ初メテ法律トナルナリ議會ノ議決ニヨリテ確定シタル法律案モ天皇ノ裁可ナケレハ法律タルヲ能ハス天皇ハ之ヲ裁可シ又ハ裁可セサルノ自由ヲ有シ給フナリ裁可トハ法律案ヲ嘉納シ認許シ御名ヲ署シ御璽ヲ鈐シ給ヒテ法律ト確定スルヲナリ

天皇ノ裁可シ給フノ時期ハコ、ニ規定シオラス故ニ法律案ハ議會ノ議決後直ニ裁可スルハ勿論ナレトタトヒ幾年ノ後ト雖モ裁可ニ依リテ法律トナルヘキ筈ノモノナリトスサレト議院法ノ第三十二條ニ次期ノ議會マテハ御裁可ナキモノハ裁可ナキモノト見做ストノ意ヲ示セルヲ以テ裁可ノ時期ハ次期ノ議會ノ開カル、前トナルナリ一度裁可アレハ即チ法律トナルナリ其法律ハ之ヲ公布執行スルニアラサレハ臣民ニ對シテ效力ナケレトモ一度裁可アリテ法律トナルタル以上ハ其裁可ヲ取消スヲ能ハサルナリ之ヲ廢止變更スルニハ新ニ法律ヲ以テセサルヘカラサルナリ

裁可ニヨリテ法律トナリタルモノヲ官報ニ掲載シテ國民及官府ニ布告スルヲ公布ト曰フ國民ハ公布ノ時ヨリ之ヲ遵奉スルノ義務ヲ負フモノナリ即チ公布ニヨリテ法律カ法律タルノ效力ヲ生シ公布以前ニハ人民之ニ背クヲアルモノ之ヲ制裁スルヲ能ハサルナリ執行トハ法律ヲ施行シ實際ニ適用スルノ意ナリ而シテ執行ハ當局ノ官省ニ是ヲ實行スヘキヲ命スルヲナリ之ニ依リテ官省ハ之ヲ實際ニ適用スルノ權ヲ生スルト共ニ又タ之ヲナスノ義務ヲ生スルナリ

第七條、天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命ス

本條ハ帝國議會ノ生存廢滅ハ獨リ天皇ノ特權ナリトノ意ヲ示スナリ

我帝國議會ハ貴衆兩院ヨリ成立シ二院ハ一体ヲナスナリ帝國議會ト云ヘハ必ス兩院ヲ包含スルモノトス故ニ之ヲ開會シ停會シ又ハ閉會スルニハ兩院同時ニ之ヲナスヘキモノナリ若シ一院ノミノ開會停會閉會ヲナスモ之レ無効ニシテ帝國議會ノ開會停會閉會トナルヲナシ召集トハ勅令ヲ以テ議員ヲ集合シテ議會ヲ組織セシムルヲナリ召集ナクシテ議員自ラ集マルトモ之レ議院ト曰フヲ能ハス從テ其議決モ無効ナリ

議會ハ勅令ニヨリ開會スルモノニシテ開會ノ初メ天皇親臨シ又ハ勅使ヲ遣ハシテ勅語ヲ賜ハルヲ式トス其式後初メテ議會ハ議事スルノ權ヲ生シ又タ義務ヲモ生ス故ニ其式前又ハ閉會後ノ議決ハ憲法上帝國議會ノ議決タルノ效力アルナシ

停會トハ議會ノ議事ヲ一時中止スルモノナリ中止スルニ止マルモノナレハ停會前ト停會後トハ議事相
 連續シタルモノト見做スナリ、閉會ハ然ラス議會ヲ閉ツルモノニシテ次期ノ議會ト議事上ノ連絡更ラ
 ニナシ否決サレタル同一議案ハ是ヲ同期中議會ニ再ヒ提出スルコト能ハサルモノナレハ停會前否決サレ
 タル議案ハ再ヒ之ヲ停會後ノ議會ニ提出議事スルコト能ハサレト次期ノ議會ニ提出スルコト得ルナリ
 解散ハ己ニ成立セル議會ヲ輿論ヲ代表セサルモノト見トメテ是ヲ消滅セシメテ更ニ新ニ議會ヲ組織セ
 シメ輿論ノ歸着スル所ヲ問フモノナリ然レモ解散ハ之ヲ何時ニテモナスコト得ルモノナリ開會中ハ勿
 論停會中閉會中ナリトモナシ得ヘク又タ擢擧後一度モ召集スルコトナクシテ之ヲ解散スルモ自由ナリト
 ス

サレト解散ハ衆議院ニ限レリ貴族院ヲ解散スルコトナシ衆議院解散サル、并ハ貴族院ノミニテハ帝國議
 會ヲ成立セシムルコト能ハス故ニ衆議院解散サル、并ハ貴族院ハ停會サル、モノナリ

第八條、 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ
 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサル并
 ハ政府ハ將來ニ向テ其效力ヲ失フコト公布スヘシ

凡ソ法令ヲ分ケテ法律、緊急命令及行政命令トス法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノナリ行政命令ハ
 行政ノ爲メニ發スル命令ナリ本條ハ緊急命令ヲ規定シタルモノナリ法律ハ命令ヲ以テ廢止變更スルヲ
 得ス之ヲナスニハ他ノ法律ヲ以テセサルヘカラサルモノナリ此原則ニ對スル例外アリ緊急勅令トシテ
 本條ニ規定サレタルモノ即チ是レナリ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メニ至急ニ法律ヲ要
 スルコトアリテ然モ帝國議會カ閉會セル并ハ勅令ヲ以テ之ニ代ハラシメテ其勅令ニ法律ト同等ノ效力ヲ
 有セシメ他ノ法律ヲ廢止變更シ得ルノ便宜ヲ定メタルナリ是レ國家統治上必要ナル規定ナリトス若シ
 此規定ナキ并ハ法律ノ至急ニ改正スヘキノ要ヲ生シタル并ハ之ヲ次期ノ議會開會迄延ハス并ハ國家ニ
 大ナル不利益ヲ生スヘク若シ其一法律改正ノ件ノミニテ臨時議會ヲ召集セサルヘカラサルカ如キニ至
 リ大ナル不便不利ナルヲ以テ其際ニハ勅令ヲ以テ法律ト同等ノ効力ヲ生セシメテ應急ノ處置ニ出ツル
 コト得ルナリサレハ天皇議會閉會中ハ何時ニテモ自ら必要ト見トムル并ハ法律ニ代ルヘキ緊急勅令ヲ
 發スルノ自由アルナリ

サレトモ緊急命令ノ權ハ政府之ヲ濫用スル并ハ法律ハ全ク無用ノ長物トナリテ議會ノ協贊ヲ以テ法律
 ヲ定ムト特ニ規定シタルノ主意ニ反スルノ恐れアリ故ニ其發布ハ極メテ之ヲ慎重ニナスヘキモノナリ
 行政權ヲ以テ立法權ヲ蹂躪スルカ如キコトナカラシメ要ス而シテ此權ノ濫用ヲ防ク爲メニ次期ノ議會ヲ
 シテ之ヲ検査セシムルナリ緊急命令ハ之ヲ必ス次期ノ議會ニ提出スヘキモノトス議會ハ之ヲ否決スル
 并ハ政府ハ其命令ノ效力ヲ將來ニ失ハシメサルヘカラサルナリ緊急命令ノ權ヲ濫用スル并ハ如何ニ完

全ナル憲法モ空文ニ歸シ臣民ノ權利義務ノ保障ヲナスコ能ハサルナリ故ヲ以テ議會ニ充分ニ其監督權ヲ與シ其承諾ナケレハ將來ノ効力ヲ失ハシムルコトナシタルナリ

故ニ緊急命令カ議會ノ承諾ヲ得サルハ其命令ノ爲メニ變更廢止サレタル法律ハ緊急命令ノ廢滅ト同時ニ復活シテ將來ハ再ヒ法律タル効力ヲ生スルナリ

第九條、天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム、但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

本條ハ行政命令ヲ規定シタルモノナリ法律トモ異ナリ又前條ノ緊急命令トモ大ニ異ナレリ法律ハ議會ノ協賛ヲ以テ制定サル、モノナリ行政命令ハ天皇ノ發シ給フ國家ノ意思ナリ議會ノ協賛ヲ經スシテ天皇之ヲ發スルコトヲ得是ヲ發スルハ本條ニ規定サル、如ク法律ヲ執行スル爲メカ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニナスモノナリ

此行政命令ノ權ハ各國ノ團體政体ノ異ナルニ係ラス各國ノ君主皆ナ之ヲ有ス是レ君主ハ行政監督權ヲ有スレハナリ

行政命令ヲ發スルノ權ヲオク理由如何、近來法治國ノ觀念ハ非常ニ發達セリト雖モ社會ノ凡テノコト盡ク法律ヲ以テ規定スルコトハ實際ナシ難シ立法機關ハ應急ノ必要ニ乘スルニハ極メテ不便ニシテ又事

物ノ細末ナル利害ヲ便宜裁量シ處置スルニ適セサルナリ是ヲ補フカ爲メニ行政命令ヲ發スルノ權ヲ設ケタルナリ

第十條、天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ル

本條ハ官制權任免權ヲ規定シタルモノナリ

憲法上行政ナル文字ハ種々ナル意味ニ用非ラル或ハ司法ニ對シ或ハ立法ニ對ス而シテ本條ニ於テハ行政ト曰フコトヲ普通ノ行政ト司法トヲ合セ意味ス故ニ行政各部ノ官制トハ凡テノ官府ノ官制トイフ意味ナリ官府トハ國家カ政治ヲナス事務所ナリ官制トハ事務ノ分掌官府ノ組織及其權限ヲ規定スルナリ而シテ此ヲ規定スルノ權ハ天皇ノ大權ニ屬シ其作用ニ依リテ官府ノ組織構成ノ事ヲ規定スルナリ官制ノ大權ハ行政權ノ一部トシテ天皇ニ專屬シ議會ノ協賛ヲ必用トセス何ントナレハ是レ國家ノ官府カ法律命令ノ下ニアリテ國家ノ目的ヲ達スル爲メニ如何ニ活動スルカラ定ムルモノニシテ立法ノ行爲ト少シモ關係ナキコトナレハナリ凡テノ官制ハ勅令ヲ以テ定ム唯例外トシテ裁判所會計検査院市町村ノ官制ハ持ニ是ヲ重シトシ法律ヲ以テ定ムヘキコトヲ憲法ニ規定セリ

文武官ノ俸給ヲ定ムルノ權モ亦天皇ノ大權ニ屬ス文武官ニ俸給ヲ與ヘル理由ハ官吏トシテ國家ノ事務ヲ掌ルモノハ國民一般ノ負擔ヨリモ尙ホ大ナル負擔ヲナスモノナルヲ以テ是ヲ賠償スルノ精神ニ出テ

タルモノナリ

文武官ヲ任免スルノ權モ亦タ天皇ノ大權ニ屬スサレト此權ヲ行使スルニ付キテハ制限アリ法律ノ規定ニヨラサルヘカラサルコト是レナリ故ニ憲法第十九條ニ日本臣民ハ法律命令ノ定ムル處ノ資格ニ應シ均シク文武官ニ任セラル、コトヲ得トアリ

第十一條、天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

本條ハ兵馬ノ權ハ天皇ニ屬スルモノナルコトヲ規定セルナリ、兵馬ノ權ハ君主國タルト共和國タルトヲ問ハス君主ニ屬スルヲ常トス統帥トハ陸海軍ヲ號令スルコトナリ統帥權ハ天皇ニ專屬シ之ヲ行フニ於テ立法事項又ハ行政事項ニ屬スルモノニアラサルコトヲコ、ニ宣言シタルナリ是レ陸海軍ハ國家ノ安寧秩序ヲ保有スルモノニシテ此レカ統一ヲ必要トスルモノナルヲ以テナリ

第十二條、天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

天皇ハ前條ノ如ク陸海軍ヲ統帥スルノ權アルノミナラス之レヲ如何ニ編制スルカ及之レカ常備員數ヲ定ムルノ權ヲモ有スルコトヲ規定セルナリ編制トハ兵力ノ分配軍隊ノ組織等ヲ曰フ軍隊艦隊ノ編制及ヒ兵器ノ備用給與軍隊教育檢閱紀律禮式服制衛戍城塞及ヒ海防軍港等ヲ定ムルナリ此等ノ軍事上ノ處置ハ兵馬行使上極メテ必要ナルコトナルヲ以テ法律議會ノ干涉ノ外ニオキ天皇專ラ之ヲ行ヒ給フコトナシタルナリ

第十三條、天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ媾シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

一國ノ君主カ外國ニ對シテ國家ヲ代表スルコトハ諸國ノ通則ナリ蓋シ外交ノコトハ事態重大ニシテ一國ノ安危ニ關スル事項ト雖モ時機ニ應シ迅速ニ秘密ノ處分ヲナスコトヲ要スルコトアリ又タ國家ト國家トノ交際ハ國家ヲ代表スル君主ノ交際ナリ之ヲ以テ君主ニ戰ヲ宣シ和ヲ媾スルノ權ヲ專屬セシメタルナリ若シ此權ヲ多數人民ノ集合体ナル議會ニ任シタリトセンカ其不便大ナルヘク外交ノ秘密ト迅速ヲ欠クニ至ルヘキヲ以テナリ

諸般ノ條約トハ和親貿易及聯盟ノ約ヲ云フ此條約ヲ締結スルニハ獨逸佛國等ニテハ議會ノ協賛ヲ必要トスレモ我國及英國ニテハ議會ノ協賛ヲ經スシテ天皇自ラ之ヲ締結シ賜フナリ條約トハ君主ノ命令ニアラス臣民ニ對スルモノニアラスシテ國ト國トノ約束ナリ條約ハ間接ニハ其國ノ臣民ノ行爲ヲ束縛スルコトアルモ條約ノ本來ノ性質ハ國際間ニ止マリ臣民ニ直接ノ影響ナキモノトス若シ法律ヲ以テ國際間ノ條約ヲ遵守スヘキコトヲ臣民ニ命スルハコ、ニ初メテ直接ニ人民ノ行爲ヲ檢束スル效力ヲ生スルニ至ルナリ

第十四條、天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
戒嚴トハ内外ノ變亂ニ際シ通常ノ法律ノ效力ヲ停止シ司法行政ノ一部分又ハ全部ヲ擧ゲテ軍事處分ニ

委スルコナリ乃チ通常法ヲ停止シテ特別法ヲ行フコナリ此ノ戒嚴ヲ宣告シ及ヒ是レヲ解クノ權ハ天皇ニ專屬シ議會ノ干涉ヲ許サスサレト如何ナル場合ニ戒嚴ヲ宣告スヘキカ及ヒ戒嚴ノ宣告ハ如何ナル效力ヲ有スルモノトスヘキカハ君主ノ自由ノ意思ヲ以テ定メ得ヘキモノニアラス法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトナシタルナリ、

臨戰合圍ノ地ニアリテハ臨時戒嚴ヲ宣告スルノ權ヲ其地ノ司令官ニ委任シ後ニ其上申ヲナサシム是レ便宜上法律ヲ以テ憲法上ノ天皇ノ大權ヲ將帥ニ委任シタルモノナリ

第十五條、天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

君主ハ榮譽ノ源泉ナリトハ君主國ノ通則ナリ蓋シ論功行賞及卓行善舉ヲ表彰シ顯榮ノ品位紀章特典ヲ授與スルハ專ラ至尊ノ大權ニ屬シ他ノ容喙ヲ許サ、ル處ナリ彼ノ外國ノ勳章ヲ佩用スルコトヲ認可スル權モ亦タ本條ニ屬スルナリサレト此等ヲ以テ臣民ニ階級ヲ造ルモノニアラス何ントナレハ爵位勳章ハ其人ニ對スル榮譽ノ表彰ニ過キスシテ此ノ爲メニ臣民及國家ニ對シテ何等ノ權利義務ヲモ生セザレハナリ

第十六條、天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

國家ハ法律ヲ設ケテ特別通常ノ裁判所ヲ設置シ臣民ノ權利ヲ平等均一ニ保護セサレトモ法令ハ往々人情風俗ニ適セサルヨリ天皇ハ此等ノ權利ヲ行ヒテ法律ノ及ハサル處ヲ補ヒ亦タ過キタルヲ減シ法律ト

人情ト相矛盾スルコナカラシメ以テ彼我ノ權衡ヲ失フコナキヲ期ス大赦トハ或一種ノ犯罪ニ對シ之ヲ赦ヒ又ハ之ニ罰ヲ加フルコナカラシムルコナリ特赦トハ特定ノ犯罪者ノ刑罰ノ一部分又ハ全部ヲ取消スナリ減刑トハ判決確定シテ刑罰ヲ加フルニ際シ其一部分ヲ減スルコナリ復權トハ公權ヲ剝奪サレタルモノニ向テ將來其公權ヲ復スルコトヲ曰フナリ

帝國憲法ハ第四條以下第十六條マテ天皇ノ大權ノコトヲ列擧シタリサレト天皇ノ大權ハ此列記サレタルモノニ限ルニアラス他ニモ存スルナリサレトコ、ニハ其大綱要領ニスキサルナリ主權者タリ統治權ノ總攬者タル天皇ハ尙ホ此列記セルモノ、外ニ法律ニ反セサル限りハ何事ニテモ臣民ニ向テ命令スルコト自由ナリ唯コ、ニ列記セルコトハ必ス天皇ニ專屬スルモノニシテ他ノ機關ニ委任シテ之ヲ行ハシムルコトナク天皇親裁シテ之ヲ行フモノナルコトヲ規定シタルナリ

第十七條、攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル、

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

如何ナル場合ニ攝政ヲオクヤ何人カ攝政タルヤハ皇室典範ニ規定スルナリ憲法又ハ法律ニ規定セザルナリ唯憲法ハ攝政ハ天皇ノ名ヲ以テ大權ヲ行フコトヲ定メタルナリ

攝政ハ官職ニアラス官職トハ君主カ臣下ニ國政ノ一部分ヲ委任シテ行ハシムルモノナリ攝政ハ君主之ヲ任命スルニアラス又、國政ノ一部ヲ行フモノニアラス天皇ノ大權ノ全部ヲ行フモノナリ天皇ト攝政

トハ同体ナルナリ元來天皇自ラ大權ヲ行フヘキモノナルニ天皇之レヲ行フ能ハサル場合ニ攝政ヲオクナリ其場合ニハ當然攝政生スルナリ攝政ハ天皇ノ大權ノ全部ヲ行ヒテ天皇ノ名義ニテ之ヲナス尙ホ攝政ノ事ニ付テハ皇室典範第五章ヲ參照スヘシ

第二章 臣民ノ權利義務

臣民トハ國家ノ主權者ニ絶對無限ニ服従スルモノナリ臣民ハ統治ノ客體ニシテ其國ニ生レ其國民ノ子孫ナルキハ當然其國民トナルナリ自己ノ自由ノ意思ニヨリテ其國民タルヤ否ヤヲ決定スルニアラサルナリ又臣民カ主權ニ服従スヘキモノナルコトハ法律ノ規定ニ依リテ生スルモノニアラス國家カ國家トシテ存スルニハ臣民ハ必ス存セサルヘカラサルモノナリ臣民ハ法律ニヨリテ起ルモノニアラス國家ハ先ツ臣民ヲ有ス國家カ其臣民ニ對シテ法律ヲオキテ命令スルモノナリ臣民アリテ後法律存ス法律アリテ后臣民存スルモノニ非ラサルナリ臣民ノ國家ニ對スル服従ハ一定ノ程度ナク又無條件ナリ臣民ハ法律ニヨリテ保護サル、ト雖モ國家ハ如何ナル法律ヲモ制定シ得ヘク如何ナル事ニテモ臣民ニ命令シ得ヘシ臣民ハ是非トモ之レニ從ハサルヘカラサルナリ是レ臣民ノ服従ハ絶對無限ナリト曰フ意ナリ臣民ハ國家主權ニ服従シ國家主權ハ臣民ヲ保護ス保護ハ服従ノ結果ナリ保護ハ權力者ノ賜者ナリ一方ニ權力アル故ニ他方ニ服従アルナリ相互ニ比較的ノモノナリ權力者ナケレハ服従者ナキナリ保護トハ權力者カ服従者ノ利益ノ爲メニ其權力ヲ行フナリ主權者カ服従者タル臣民ヲ保護スルニヨリテ臣民ハ其人格ヲ生スルナリ權力ト權利トハ異ナレリ服従者ハ權力者ノ保護ノ下ニ於テ權利ヲ有シ得レト權力ハナシ權利ハ法律ニヨリテ保護セララル、利益ナリサレト權力ハ法律ノ制作物ニアラサルナリ權利ハ權力ニアラサルヲ以テ權利ヲ有スルコトハ服従者タル性質ニ何等ノ影響ナシ權利ヲ有スルカ故ニ服従者カ權力者

トナルカ如ク考フルハ誤リナリ服従ト權利トハ兩立スルモノナリ此理ヲ忘ルヘカラス人動モスレハ立憲政体ニテハ國家カ臣民ニ權利ヲ與エタルヲ以テ臣民ハ最早服従者ニアラストシ或ハ權利ト權利トヲ同視シテ服従者タル臣民ニハ權利ヲ與フルコト能ハスト論スレト是レ甚シキ誤解ナリ權利トハ法律ニヨリテ服従者ノ利益ヲ主張スルコトヲ認メタルモノナリ此レカ爲メニ服従者ノ地位變シテ權力者トナルカ如キ事萬々是レナキコトナリ義務トハ權利ニ對スル語ナリ一方ニ權利アル故ニ之レニ對シテ他方ニ義務アルナリ權利ナケレハ義務生セス權利者トハ相對的ノモノナリ一アレハ必ス他アリ義務トハ法律ニヨリテ保護サル、權利者ニ對スル負擔ナリトイフヘシ

第十八條、日本臣民タルノ要件ハ法律定ムル所ニ依ル

日本臣民ハ日本帝國主權ノ保護ヲ受ク外國人ハ之ヲ受クルコトヲ得ス而シテ日本臣民タルノ要件ハ之ヲ特別ノ法律ヲ以テ定メ其要件ヲ備フモノハ公權私權其他百般ノ完全ナル保護ヲ受ケ日本臣民タルナリ日本臣民タル資格ヲ得ルニニ様ノ方法アリ一ハ日本臣民ノ子孫タルニヨリテ日本臣民トナルコトナリ二ハ外國人カ歸化シテ日本臣民トナルコトナリ

第十九條、日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均シク文武官ニ任セラレ及其他ノ公務ニ就クコトヲ得
古代ハ門地ノ高下ヲオキ階級ヲ分チ官職ハ家ニ屬シ家々ハ夫レ々ノ官職ヲ世襲セリ其ノ弊タルヤ論ス

ルマテモナシ本條ハ是ヲナサ、ルコトヲ宣言シタルナリ法律ノ下ニ四民平等ナルモノトシ其法律命令ニ規定セル資格ヲ有スルモノハ門地階級ノ別ヲナサ均シク文武官ニ任セラレ得ルナリ然シ法律命令ノ規定セル資格ヲ具フルモノハ文武官ニナルコトヲ請求スルノ權アルニアラス資格ヲ具フルモノカ文武官ニ任セラル、ニツキテハ門地階級ノ差別ヲオカサルコトヲ規定セルナリ其他ノ公務トハ文武官ノ外ノ凡テノ公務即チ帝國議會ノ議員市町村會議員等ニ選ハル、コトナリ

第二十條、日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

本條ハ國民皆兵主義ヲ宣言シタルモノナリ軍隊ハ一國ノ生存獨立ヲ保持シ安寧秩序ヲ維持スルニ一日モ欠クヘカラサルモノナリ依テ臣民一般ニ兵役ノ義務ヲ負ハシメタルナリ兵役ノ義務ハ日本臣民ニ付テノ義務ナリ日本臣民ハ皆ナ此義務ヲ負擔スルナリ是ヲ大原則トシ尙ホ詳細ノ事及免役等ノコトハ法律ニヨリテ之ヲ定ムルトノ意ナリ

第二十一條、日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

租税ハ一國共同生存ノ必用ニ應スルモノナリ一國ノ共同生存アリテ臣民ノ權利ハ保護セラレ身体生命財產共ニ安キヲ得ルナリ是ヲ以テ國家ニ租税徵收ノ權ヲ生シ臣民ニ納税ノ義務生スルナリサレト租税ヲ徵收スルニハ法律ノ規定ニ從フコトヲコ、ニ約束セルモノナリ
租税ハ公用徵收トハ異ナルモノナリ租税モ公用徵收モ共ニ臣民ノ意思如何ニ係ハラス國家主權ノ發動

ナレトモ公用徴收ハ特定ノ物ノ所有權ヲ強テ徴用スルモノニシテ租税ハ財政上ノ收入ノ爲メニ無償ニテ資産ヲ強制徴收スルナリ公用徴收ニテハ其特定物ノ徴收ニ對シテ相當ノ賠償ヲナスヲ通則トス是レ兩者ノ差異ナリトス

第二十二條、日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

本條ヨリ第三十條マテノ各條ハ所謂臣民ノ自由及ヒ財産ヲ保障スル規定ナリ自由ハ臣民ノ生活及智識發達ノ本源ナリ故ニ此ヲ妨クルモノハ國運ノ進歩ニ大ナル障害ヲ與フヘシサレト個人ノ利益ト國家ノ利益トハ往々ニシテ相衝突スルコトナキヲ保シ難シ其場合ニハ國家ノ利益ノ爲メニ個人ノ利益ヲ犧牲ニ供スルモ之レ止ムヲ得サルコトナリサレト一般ニ個人ノ自由ヲ見止メオキ必要ナルキハ法律ヲ以テ之ヲ制限スルナリ其制限ニ背カサル以上ハ凡テ個人ノ自由ヲ許スナリ此ノ憲法上與ヘラレタル自由ニアリテ臣民ニ權利義務ヲ發生スルナリ

本條ハ臣民ノ運動ノ自由ヲ規定シタルモノナリ昔日封建ノ代ニアリテハ各藩其疆界ヲ守リ各其關門ヲ設ケテ人民ヲシテ其本籍地以外ニ居住スルコトヲ許サス又許可ナクシテ旅行スルコトヲ禁シ人民ノ交通運動ノ自由ヲユルサ、リキ本條ハ此ヲ破リテ其自由ヲ憲法上確保シタルモノナリ居住トハ本籍ヲ定メ或ハ寄留ヲナシ或ハ滞在ヲナスコト等ヲ云フナリ移轉トハ隨意ニ定ムル處ノ手續ニヨリテ其居住ヲ轉スルヲ曰フ法律ニヨリテ此等ノ自由ヲ制限スルトイフハ監視中ノモノハ警察官ノ許ナクシテ移轉スルコトヲ

許サス又徴兵現役中ノモノハ他國ニ移住スルコトヲ許サ、ルカ如キ法律ノ存スルアレハナリ

第二十三條、日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クル

コトナシ

本條ハ人身ノ自由ヲ明カニシタルモノナリ逮捕監禁審問處罰ハ法律ノ規定ニヨリテナスノ外之ヲナスヘカラス故ニ裁判官警察官ト雖モ法律ニ據ル處ナケレハ之ヲナスコトヲ得ス亂リニ之ヲナスモノハ違憲トナルナリ以テ憲法上コ、ニ人身ノ亂リニ逮捕監禁審問處罰サル、コトナキヲ確保シタルナリ

第二十四條、日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル

コトナシ

日本臣民ニ附與サレタル自由權利ヲ全フスル爲メニハ之ヲ妨害サレタルキハ裁判官ニ向テ救濟ヲ求ムルノ權ヲ法律上確保セリ此救濟ヲ求ムルノ權ハ亂リニ他ノ行政官ノ爲メニ妨ケラル、コトナキモノナルヲモ、ニ宣言シタルナリ

第二十五條、日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外其許諾ナクシテ住所ニ浸入セラレ及ヒ搜索サル、コトナシ

本條ハ家宅安ヲ保護スルモノナリ家宅ハ人民ノ根據地ナリ之レカ不安ナルキハ臣民ノ自由權利ヲ妨クルコト至大ナリサレハ之ヲ確保スルモノナリ警察官行政官ト雖モ亂リニ之ヲ侵ストコトヲユルサス唯往々ニ

シテ國家ノ必要上住所ニ浸入搜索スルノ必要アリ此レハ法律ヲ以テ其場合ヲ定メ其法律ニ定メラレタル場合ノ外ハ何人モ是ヲナスコトヲ許サ、ルナリ住處トハ居住ノ家宅ノミヲ云フニアラス是ニ附屬スル一定ノ土地ヲモ包含スルモノナリサレト家屋ハ凡テ住所トハ云ヒ難シ即チ何人ニテモ自由ニ出入ヲユルス處ノ博物館寄席ノ如キ是レナリ此等ハ本條ノ規定ノ適用ヲ受クルモノニアラス

第二十六條、日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

信書ノ秘密ハ近世文明ノ惠賜ナリ是レヲ破ルモノハ人民ノ自由ヲ妨クルモノナリ憲法上此自由ヲ確保シタルナリ唯之ヲ破ルノ止ムナキ必要アル場合ハ法律ヲ以テ定メオクナリ其法律以外ニ之ヲ侵サルヘキモノニアラサルナリ信書トハ他人ニ托シテ往復スル封鎖サレタル凡テノ文書ヲ總稱スルモノナリ

第二十七條、日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルコトナシ

公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
本條ハ臣民ノ所有權ヲ保障スルモノナリ所有權トハ物ヲ自由ニ處分スルノ權ナリ臣民ハ其所有物ハ隨意ニ之ヲ處分シ得ルモノニシテ敢テ他ノ干渉妨害ヲ受クルコトナキモノナリ憲法上此權利ヲ保障シタルナリ唯國家ノ必要上臣民ノ所有權ヲ無視妨害スルノ要アルコトアリ其等ノ場合ハ法律ヲ以テ之ヲ鄭重ニ

定メ其法律ニ定メタル以外ニ於テハ如何ナル場合ニテモ又何人ニテモ之ヲ破ルトナキヲ憲法上コトニ確保セルナリ夫ノ土地收用法ノ如キハ法律ヲ以テ臣民ノ所有權ヲ無視スルノ例ナリ是レ國家全般ノ利害ニヨリ一個人ノ利益ヲ犧牲ニ供スルモノニシテ亦タ止ムコトヲ得サルモノナリトス

第二十八條、日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

信教ノ自由ハ世界各國ヲ通シテ見トメラル、所ノ近世文明ノ觀念ナリ是レ人類ノ最モ至貴至重ナル本心ノ自由ノ發動ナレハナリ元來信教ハ專ラ人身ノ内部ニ屬シ固ヨリ國法ノ干渉スル能ハサルモノナリ其ノ人心内ニ如何ナル教ヲ奉シ信仰シホルトモ其ノ外部ニ表ハレテ安寧秩序ヲ妨ケ又ハ臣民タルノ義務ニ背カサルノ限リハ國家ノ生存ニ害ナシ國家ハ之レニ干渉スルノ要ナシ唯國家ニ害アリテ初メテ國家ハ之ヲ取締ルコトヲ要スルナリサレト法律ノ規定ヲ以テ是ヲ定メス國家ハ安寧秩序ニ害アリ及ヒ臣民ノ義務ニ背クノ信教ハ直ニ之ヲ止ムルコトヲ得ヘク法律ノ規定ニヨルノ要ナク命令ヲ以テ之ヲ所分スルコトヲ得ルナリ

本條ノ規定ノ結果トシテ帝國ニハ國教ナルモノナキヲ明ガニシ宗教ノ異同ニヨリ臣民タルノ地位ニ差異ヲ生セサルコトナルナリ又タ何等ノ宗教ヲモ信セサルモ妨ケナキコトナルナリ

第二十九條、日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及ヒ結社ノ自

由ヲ有ス

本條ハ臣民自己ノ意思ヲ公ニシ或ハ或ル目的ヲ達スル爲メニ相結合スルノ自由、換言スレハ意思ノ交通ノ自由ヲ保障シタルモノナリ此ヲ制止スルノ權ハ法律ノミニ存ス行政權等ヲ以テ之ヲ妨ケラル、
トナシ

第三十條、日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲
スルヲ得

請願ノ權ハ至尊仁慈ノ至意ニ由リ言路ヲ開キ民情ヲ通スル所以ナリ而シテ其事件ハ各個人ノ利害ニ關
スルモノナルト公益ニ關スルモノナルトヲ問ハス凡テ臣民ハ請願シ得ルモノニシテ相當ノ敬禮ヲ守リ
特別法律ニ規定シタル處ニ準據スルヲ要ス請願ヲナスニハ天皇各官省又ハ議院ノ何レニ向テモ隨意ニ
之ヲナスコトヲ得唯之ヲナスニハ公益ニ關スルコトハ議院ニ出タシ官省ノ職權内ノコトハ各官省ニ出タシ天
皇ノ憲法上ノ大權内ニ屬スルコトニ付キテハ陛下ニ請願スルヲ順序トス
請願トハ意思ノ發表ニスギサルナリ之ヲ許容スルト否トハ請願ヲ受ケタルモノ自由ナリ彼ノ訴願、訴
訟ノ如ク之ヲ受クルハ必ズ或判決ヲ此ニ對シテ與エサルヘカラサルモノトハ大ニ異ナルモノナルコ
トヲ注意スヘシ請願ハ唯民意ノ疎通ヲ計ルニスギサルモノナリ之ヲ受理スルノ如何ハ定マレルモノニア
ラス是ヲ受ケサルモヨシ是レニ對シテ何等ノ處分ヲナサ、ルモ不可ナキモノナリ

第三十一條、本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權
ノ施行ヲ妨ケルコトナシ

以上本章ニ規定スル處ハ皆ナ臣民ノ權利ヲ保障スルモノナリ蓋シ立憲政体ニ於テハ憲法ヲ以テ臣民ノ
權利義務ヲ確保シ以テ法令ノ侵犯ヲ防止ス故ニ臣民ノ上ニ絶對無限ノ權力ヲ有スル國家モ國權發動ノ
上ニ於テハ法律ノ檢束ヲ受ク故ニ臣民ハ其權利財産ノ安全ヲ得テ專橫違法ノ暴ヲ免カル、コトヲ得ヘシ
サレト戰時又ハ國家事變非常ノ事アルニ際シテハ止ムヲ得ス臣民ノ身體權利ヲ犧牲ニ供シテ國家全般
ノ利ヲ計ラサルヘカラス即チ例外トシテ國內ニ反亂ノ起リタル場合或ハ戰ヲ宣シタル場合ニ於テ非常
ノ處置ヲナシ法律ノ規定ニ反シテ臣民ノ自由權利ヲ浸スノ權ヲ天皇ノ大權ニ屬シタルナリ之ヲ換言ス
レハ第一章ニ掲ケタル天皇ノ大權ヲ行フニ際シテハ第二章ニ保障シタル臣民ノ權利自由ニ關スル規定
ノ爲メニ何等ノ制限ヲ受クルコトナキナリ

第三十二條、本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノ
ニ限り軍人ニ準行ス

本條ハ軍人ト憲法ノ關係ヲ定メタルモノナリ軍人ハ一般臣民ト異ナリ國家ニ對シテ特別ノ權利ト義務
トヲ有スルモノナル故ニ又特別ノ法令又ハ紀律ニヨリテ之ヲ支配スルノ必要アリ軍人ハ凡テ此等ノ特
別ノ法令及ヒ紀律ノ檢束ヲ受ケ尙ホ夫レ等ト矛盾セサル限リニ於テ此憲法上第二章ノ規定ノ準行ヲ受

第三章 帝國議會

議會ノ國法上ノ地位ハ沿革ニヨリ國体ニヨリ各其國ノ現行憲法ノ規定ニヨリテ其地位ヲ同フセス我帝國議會ハ統治ノ機關ナリ故ニ天皇ト議會ト共同シテ統治權ヲ總攬スルニアラス議會ハ天皇ノ統治權ヲ行フ機關ナリ臣民ノ權利ヲ行フ機關ニアラス是我國体ヨリ定ムル所ナリ臣民ハ帝國議會ヲ組織スルニ於テ參與ス然乍組織セラレタル議會ハ天皇ノ統治機關ニシテ臣民ノ權利ニ關係ヲ有セス故ニ其職權ハ國家機關ノ職權ニシテ臣民ノ權利ヲ行使スルニアラス

帝國議會ハ國家ノ機關ナリ故ニ憲法ノ附與權限ノ外議會固有ノ職權ナシ故ニ憲法ニテ禁止セサル權限ハ是レヲ有スルト云フ推測ナシ又其決議ヲ以テ其權限ヲ伸縮スルヲ得ス換言スル時ハ議會ノ權限ノ權限ナシ

議會ハ憲法上ノ機關ナリ即チ憲法ニヨリテ始メテ設置サレタルモノナリ故ニ憲法ノ變更ト其運命トヲ同フス故ニ天皇ノ握有シ給フ憲法上ノ大權ニヨリテ存廢サル、所ノ機關ト異ナレリ然シテ其參政權ノ範圍ト形式トハ憲法及議院法ニヨリテ定マルナリサレハ命令ヲ以テ其範圍ト形式ニ變更ヲ加フルヲ得ス

帝國議會ハ他ノ統治機關ト異ナリテ外部ニ對シ命令スルノ職權ナシ行政司法ノ諸機關ハ臣民ニ對シテ國權ノ發動タル命令權ヲ行使スルヲ得然ルニ議會ハ臣民ニ對シテ命令ヲ發シ處分ヲ行フヲ得ス臣

民モ又其議決ニ從フ國法上ノ義務ナシ是レ我憲法カ三權ノ分立主義ヲ採用スル所ニシテ議會ハ立法シ
司法ハ裁判ヲナシ政府ハ行政スルヲ主義トスル所以ナリ故ニ議會ハ命令權ヲモ裁判權ヲモ有セス唯協
贊スルノミ決シテ統治セス唯其決議ヲ奏上シテ聖明ノ裁可ヲ仰キ或ハ是レヲ政府ニ送致シテ採納ヲ求
ムル外直接ニ國家施政ニ關與スルコトナシ

通俗ノ政治論トシテハ帝國議會カ政府ヲ管督スルト解スルモノ多シ誤ナリ蓋歐洲立憲政體ノ説明トシ
テモ國會カ管督スルハ(若シ管督ナルモノアリトスル時ハ)大權ニ對スル關係ニシテ行政ニ對スル管督
ナラス例ヘハ政府カ行政ノ主義ヲ誤リタルトカ法律ノ規定ニ反シタルトカイヒテ大臣ヲ彈劾スル歐洲
ノ政治思想ハ立法權ト天皇ノ有シ給フ憲法上ノ大權トノ關係ニシテ大權ヲ暴視スル君主又ハ其行使ヲ
輔弼スル大臣ニ對シテ大權ノ行動批評タルニ止マリ法理上又我憲法ノ規定上行政ニ對シ立法權ハ直接
ニ管督スルコトナシ注意スヘシ

歐洲ノ學者或ハ國會ヲ以テ主權ノ所在トナスハ絕對的ニ我國體ト相容レズ又民主々義ヲトル國ニ於テ
ハ國會ヲ以テ最高ノ權カトナシ君主ト立法權ヲ共有ストナス說アレモ固ヨリ我憲法ノ解釋トシテハ誤
謬ナル解釋ナリ論スルニ足ラス

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

帝國議會ハ貴族院又ハ衆議院ノ一院ヲ以テ構成スルモノニアラス二院ヲ合シテ始メテ議會ヲ構成ス故

ニ貴族院及ヒ衆議院ハ帝國議會ノ二局部ナリ故ニ貴族院ノ行フ職務モ衆議院ノ行フ職務モ法律上共ニ
帝國議會ノ職務ニシテ貴族院又ハ衆議院トイフ一局部ノ名ヲ以テ立法行為ニ參與スルニアラス又參與
スルコトヲ得ス

二院制、今日何レノ國ニ於テモ苟クモ立憲國ニテハ概ネ二院ノ制度ヲ用非一院制ヲ行フモノハ僅ニ希
臘瑞西ノ各州獨逸聯邦中ノ小邦ツミニシテ其他總テノ開明ニ進ミタル國民ハ必二院制ヲ採用セリ合衆
國ニ於テ二院制度ヲ採用スル理由ヲ見ルニ第一ニ一個ノ合議體ハ一個人ノ如ク激情ヲ爲メニ動カサル
、コアリ此時ニ際シテ如何ナル行為ヲナスモ普通一般人民ノ如ク未來ノ考案ナク唯過失ニ陥リ易シ第
二ニ一院ナル時ハ勢力ヲ有スル人カ容易ク議會ヲ左右スルコトアリ是レ甚タ立憲國ノ觀念ト相容レサル
所ノモノナリ是レヲ豫防スルニハ各異ナル原素ヲ以テ構成スル二院ヲ置キ同事件ニツキ再ヒ議セシム
ル時ハ其弊害ヲ抑制スルコトヲ得ヘシト 以上ノ理由ハ合衆國憲法ヲ制定スル時ニ當リテ制定者カ述ヘ
タル所ノ理由ナレモ猶此他ノ理由ナキニアラス第一ニ若シ一院制度ヲトリ人民ノ選舉ニ出テタル議員
ノミヲ以テ是レヲ組織スル時ハ其議員ナルモノハ自己ノ選舉區又ハ一地方ノ利害ノミヲ專ラトシ國民
全般ニ通スル利益ニ着眼スルコトナシ然ルニ國家ハ直接ニ臣民ニ利害ヲ及ボサヌ事業ニシテ關接ニハ臣
民ニ利害ヲ及ボスノミナラス一國ノ休戚スルニ關スル事業例ヘハ軍事外交ノ如キ事業ニツキテハ臣民
ノ意思賛否如何ニ關ラス是レヲ經營セサルヘカラス故ニ人民直接ノ選舉ニヨル一院制ナル時ハ是等ノ

專業ハ發達伸張スルコトヲ得ス故ニ他ノ一方ニ於テ人民ノ選舉ニアラス國家全体ノ代表ヲ以テ自ラ任スルノ他ノ一院ヲ設クル必要アリ第二ニ近世文明ノ恩澤トシテ代議制度ヲ組織スル時ハ人民中ニ存在スル各原素ヲシテ其輕重強弱ニ應シテ相當ノ代表者ヲ出タサシメサルヘカラス然シテ是レヲ今人民選舉ノ結果ニ見ルニ其勢力ヲ有スルモノヨリ多數ヲ出タスノミニシテ少數ナレモ然シ一國ノ要用ナル原素ヨリハ却テ其代表者ヲ出サ、ルコトアリ即チ華族ノ如キ或ハ智識ニ於テ優者タルモノヲシテ代表者ヲ出タスコト能ハサラシム此ニ於テカ別ニ一院ヲ設ケテ諸原素ヲシテ國家ノ立法行爲協贊ノ上ニ其意見ヲ提スルコトヲ得セシム

第三十四條、貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

本條ハ貴族院ヲ組織スル必要々件ヲ定メタルモノナリ即ハチ皇族華族勅任議員ヲ以テ組織ス然シナカラ其詳細ノ規定ハ貴族院令ノ定ムル所ニヨル貴族院令ハ明治廿二年ノ勅令第十一號ヲ以テ發布セラレタリ然レ此勅令ハ他ノ勅令ト異ナルモノナリ其十三條ニ曰ク將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スル時ハ貴族院ノ決議ヲ要スト規定セリ貴族院ハ五種ノ原素ヨリ成立ス第一皇族ノ男子ニシテ成年ニ達シタルモノ皇族ハ典範三十八條ニヨル時ハ皇太子皇太孫ハ十八年其他ノ皇族ハ普通人ノ如ク滿廿歲ヲ以テ成年トス第一公侯爵ヲ有シ滿廿五歲ニ達シタルモノ第三伯子男爵ヲ有スルモノ滿廿五歲以上ニ

シテ其同儕中ヨリ選舉セラレタルモノ第四國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿卅歲以上ノ男子ニシテ特ニ勅任セラレタルモノ第五各府縣ニ於テ滿卅歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ商工業ニ於テ多額ノ直接國稅即チ地稅及ヒ所得稅ヲ納ムルモノ十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ而シテ勅任セラレタルモノナリ然シテ是等五種ノ中皇族ト華族トハ此條件ヲ備ヘル時ハ選舉任命ト云フ手續ヲ用井ス直チニ議員トナルノ資格ヲ有スレモ勅任議員及ヒ伯子男爵議員ハ勅令ヲマテ始メテ議員ノ資格ヲ得多額納稅議員ハ選舉ニヨリテ議員タルノ資格ヲ得シテ勅任ヲマテ始メテ議員タルノ資格ヲ得ルモノナリ是ノ選舉ナル互撰ハ勅任ノ一要件タルニ過キ

第三十五條、衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニヨリ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

本條ハ衆議院組織ノ要件ヲ定メタルモノナリ然シテ其組織ハ選舉法ノ定ムル所ニヨルモノナレモ公選ニヨル議員ヲ以テ組織スヘキコトハ本條ノ命スル所即チ憲法上ノ要件ナリ故ニ選舉法ヲ改正シ公選以外ノ手續ニヨリテ議員ヲ出タスコトヲ得ス何トナレハ選舉法ハ一個ノ尋常法律ニ過キサルヲ以テ通常立法權ヲ以テ是レヲ變更廢止シ得レモ憲法ヲ改正セサル以上ハ衆議院ハ必公選議員ヲ以テ組織スルヲ必要ノ要件トス

衆議院議員選舉人ノ資格 選舉ニ普通選舉ト有限選舉トアリ此區別ハ撰舉ノ資格ニ唯財産上ノ制限ヲ

置クド然ラサル者トニヨリテ分カル所以普通選舉トイヘル年齢トカ國民タルトカ云フカ如キ制限ハ勿論是レアルモノナリ唯財産上ノ制限アルモノヲサシテ有限選舉ト云ヒ制限ナキモノヲ普通選舉ト云フ又選舉ニ直選ト復選トノ區別アリ直選トハ人民カ直接ニ選舉スル方法ヲイヒ復選トハ選舉者ヲ選ヒ其選舉者ヲシテ更ニ又代議士ヲ選出スル方法ヲイフ

第三十六條、何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

何人モ同時ニ兩院ノ議員タルコトヲ得ス故ニ一人ニシテ同時ニ兩院議員タルノ資格ヲ得タルハ其ノ一ヲ擇ハサル可カラス然シテ其擇一ノ權ハ其ノ人ノ自由ニ任ス蓋シ本條アル所以ハ兩院ハ合シテ帝國議會ヲ構成シ各其ノ成立ノ要素ヲ異ニシ以テ平衡相持スルノ位置ニアル者ナリ故ニ一人ニシテ同時ニ兩議員タルコトヲ許サス是レ二院制ヲ採用スルコトヨリ當然流出スル處ノ結果ナリ而シテ亦議員法ノ關涉ヲ許サ、ル憲法上ノ保障ナリ

第三十七條、凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

法律ハ國家主權ノ發動ナリ然乍此主權カ立法ヲナス上ニ於テ必議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スルハ近世立憲國ノ大原則ナリ協贊ハ法律成立ノ必要要件ナリ故ニ議會ノ議ヲ經サル者ハ是レヲ法律ト稱スルコトヲ得ス協贊トハ議決ナリ帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヨリ成立ス故ニ一院ノ可トスル處ナルモ他院ノ否決シタル者ハ亦帝國議會ノ協贊ヲ經サル者ナリ故ニ是レヲ法律トスルコトヲ許サス而シテ議會ノ協贊ヲ

經タル者ハ悉ク法律トナルニアラス即チ彼ノ豫算案ノ如キ即チ是レナリ

第三十八條、兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

本條ハ法律起草權ノ處在ヲ明カニシ起草權ハ政府及ヒ兩院カ各別ニ有スルコトヲ定メタル者ナリ起草權トハ法律案ヲ提出スルノ權ヲ云フ然シテ一議員若シクハ政府ノ一官吏カ起草スル處ノ草案ナル者ハ所謂草案ニシテ法律案ニアラサルナリ今一議員カ法律案トナサンコトヲ欲シ是レヲ稟議シテ議院カ是レヲ可トシ是レヲ法律案トナサント議決シタルハ或ハ政府カ法律案トシテ送致シタルハニ法律案カ成立スルナリ

貴衆兩院共ニ法律案ヲ議決スルノ權アリ是レ協贊ノ權ナリ而シテ是レヲ可決セント欲セハ是レヲ可決シ否決セント欲セハ否決スルコトヲ得ヘシ其間ニ他界ヨリノ干渉ナシ換言スル時ハ議會ハ法律上必可決スヘキノ法律案ナク亦必シモ否決セサルヘカラサルノ法律案ナシ即チ強制議決ノ制ナシ全ク議會ノ自由ナリ然シテ論者アリ條約ハ立法ヲ檢束スト然仁是レ余輩ノ取ラサル處ナリ政府カ議案ヲ提出スルニハ兩院中ノ何レヲ先キニ提出スヘキヤハ憲法ノ規定スル處ナシ故ニ政府ノ自由ニ任ス政治上ノ問題トシテハ或ハ非難スヘキコトアルモ憲法上ノ解釋トシテハ何ノ疑点ナシ亦政府ハ同一ノ法案ヲ同時ニ兩院ニ提出スルコトヲ得ルカ曰ハク可ナリ何故ナレハ憲法ノ明文是レヲ許サ、ルニアラサル故ナリ決シテ此

場合ニ第三十九條ヲ適用スルコトヲ得ス蓋シ本問ノ場合ハ否決セラレタル法律案ノ再提出ニアラサルコトニ注意スヘシ

第三十九條、 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ許サ、ル旨ヲ規定シタルモノヲ得ス

本條ハ兩院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ許サ、ル旨ヲ規定シタルモノナリ何ノ爲メニ此規定アルヤ再議ノ提案ハ徒ニ會期ヲ延引スルノミナラス又議院ノ權利ヲ毀損スルモノナル故ナリサレハ既ニ兩院ノ一ニ於テ否決シタル同一ノ議案ノ名稱文字ヲ改竄シテ是レヲ提出スルコトモ又本條ノ禁止スル所ナリ

本條ハ法律案ノ再提出ヲ禁シタルモノニシテ議員一個人ノ發案ヲ禁シタルニアラス議員ノ發案ハ議員一個ノ意思ヲ表示シテ是レヲ法律案トナサンコトヲ乞フモノナリ未ダ法律案トナレルモノニアラス故ニ議事ニ附セラレサル限リハ同會期中トイヘトモ再ヒ提案スルコトヲ得ヘシ是レ本條ノ關スル所ニアラス唯議事細則ヲ以テ議院内部ノ規則トシテ是レヲ制限スルコトヲ得ルノミ

第四十條、 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニツキ各其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

本條ハ兩議院カ政府ニ建議スルノ權ヲ有スルコトヲ明ニセリ然シテ其建議事項ハ如何ナルモノナルヤヲ問ハス全ク無制限ニシテ凡テ政府ノ事ニ屬スル事ハ何等ノコトイヘモ是レヲナスコトヲ得然シテ是レカ

建議ヲナスコトヲ許スハアラタニ法律ヲ制定シ又ハ改正セントスルニ當リ議院ニ於テ其法律案ヲ草スルノ不便ナル場合ニ是レヲ政府ニ通知シ政府ヲシテ是レカ起草ノ任ニアラシムル爲メナリ其他ノ事件ニツキ其意見ヲ政府ニ建議スルトハ憲法改正ノ事ニテモ天皇ノ憲法上ノ大權ニ屬スル事件ニテモ外交軍事教育其他一國ノ政畧ニ關スルコトニテモ又百般ノ小事ニツキテモ意見ヲ述ヘルカ如キ場合ヲイフ

建議ハ唯議院ノ意思ヲ政府ニ向ヒテ告知スルニ外ナラス爲メニ權利義務ノ關係ヲ生スルコトナシ故ニ其建議ヲ採用スルト否トハ全ク政府ノ自由ナリサレハ議院ハ其採用セシヤ否ヤノ決答ヲ求ムルノ權利ナシ又政府カ建議通リニ法律案ヲ草シ是レヲ議院ニ送致スルモ必是レヲ可決スルノ義務ナキモノナリ其採用ヲ得サルモノヲ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ禁スルハ蓋シ紛議ヲオコシ或ハ強迫ニワタルノ途ヲ防ク所以ナリ

第四十一條、 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

帝國議會召集ノ權ハ天皇ニ屬スルコト第七條ノ明定スル所ナリ然乍該條ノミニテハ其議會ヲ何時召集スヘキヤ明白ナラス是レ本條アル所以ナリ

帝國議會ノ職權ナル法律制定ハ社會ノ活動ニ從ヒテ毎年改正ヲ要シ豫算ハ毎年帝國議會ノ協賛ヲ要ス故ニ議會ハ毎年是レヲ召集セサルヘカラサル必要アリ蓋シ歐羅巴ノ君主ハ自家ノ都合ヲ以テ或ハ議會

ヲ召集シ或ハ是レヲ召集セサル年度アル故ニ此規定ヲオク必要アルナリ今本條ノ規定アルニ關ハラズ天皇是レヲ召集セサル時ハ固ヨリ違憲ノ處爲ニシテ大臣ハ補弼ノ任ヲツクサ、ルノ責任アルナリ各國憲法皆同様ノ規定ヲ存シ然シテ一般ニ冬期ニ是レヲ召集ス蓋シ冬期ハ會計年度ニ先キ立テ豫算ヲ議スルニ好都合ナルト又各國ニ於テハ夏期ハ各人四方ニ散在シ冬期ハ各人都會ニアツマルモノ多キ故ナリ

第四十二條、帝國議會ハ三ヶ月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ是レヲ延長スルヲ得ルヘシ

本條ハ議會ノ會期ヲ三ヶ月トシ但シ必要アル時ハ勅令ヲ以テ是レヲ延長スルヲ得然シナカラ勅令トイヘトモ此會期ヲ短縮スルヲ得ス又議會ハ權限ノ權限ナキ故ニ議會自身ニハ會期ヲ伸縮スルノ權利ナシ

三ヶ月ノ期間ハ如何議會ノ成立ハ勅令ヲ以テ開會スルニ始マリ閉會ヲ以テ終ハルモノナル故ニ開會ノ期ヨリ閉會ノ時マテヲ期間トシ其間ヲ三ヶ月トス其中ニアル所ノ休日又ハ停會ノ日ハ此三ヶ月中ニ算入スヘキモノトス故ニ此會期ハ召集ノ日ヨリ起算スヘキモノニアラス

議會カ閉會シタル并ハ會期ノ事務ハ終リヲツクルモノトシ或特別ノ規定アルモノヲ除ク外議事ノ既ニ議決シ終リタルト終ラサルモノトニ係ハラズ次回ノ會期ニ繼續スルヲナシ會期終リタル時ハ次ノ會期マテハ議員アルモ議會ハナキノ姿ニシテ次ノ會期トハ全ク何等ノ關係ナキモノナリ

第四十三條、臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅令ニヨル

前條ハ通常會ヲ規定セリ即チ一年一回是レヲ開クヲ云フ然レ常會ノ外臨時緊急ノ必要アル時ハ特ニ勅令ヲ發シテ臨時會ヲ召集ス而シテ臨時會會期ハ憲法是レヲ規定セス又是レヲ規定スルヲ得ス蓋シ臨時緊急ノ必要ニヨリテ定マルモノナレハ勅令是レヲ定ム或ハ豫算案ヲ議決スル會ヲ通常會トイヒ其他ヲ臨時會トイフモノアレモ是レ誤リタル區別ナリ通常會ト臨時會トノ異ナル點ハ唯其時ヲ異ニスルマテニシテ其他一切ノ點ニツキ皆同一ナリ唯召集ノ目的外ノ事項ヲ議スルヲ得サルマテニシテ法律案ヲ提出シ又建議ヲナスヲ得ルハ通常會ト一般ナリ

第四十四條、帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ是レヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ
貴族院衆議院ハ議會ノ兩局ニシテ兩院合シテ帝國議會ヲ構成ス故ニ一議院ノ議決ヲ省キ唯他議院ノ議決ヲ以テ議會ノ議決トナスヘカラス會期ノ如キモ一議院ノ會期外ニ他議院ノ會議ヲ有效ナラシムルハ二院制ノ原理ニ反ス故ニ本條ノ規定アル所以ナリ即チ開會閉會延長及ヒ停會ハ議會全体ニ關係スルヲ

ナルヲ以テ兩院同時ニナスヘキモノナリ
貴族院ノ一部ハ世襲議員及修身議員ヨリ成ルモノナルヲ以テ是レヲ解散スルノ必要ナシ唯停會スヘキ
ノミ然レモ衆議院議員ハ悉ク選舉ニ出テ國民ノ意思ヲ直接ニ代表スルモノナレトシテ一黨ノ利害
ノ爲メニ動かサレテ議會ノ目的ヲ達セス又政府ト異ナレル意見ヲ確執シタル場合ニ國務大臣ヲ交迭ス
ルヨリモ是レニ解散ヲ命シ再ヒ選舉ヲ行ヒテ其民意ノ眞實ヲタシカメル方便益ト見做ス時ハ天皇是レ
カ解散ヲ命ス

衆議院ハ閉會中トイヘモ是レニ解散ヲ命スルコトヲ得ルヤノ問題ハ我憲法上未決ノ問題ナレモ普魯士及
ビ、ロンネ論ニヨレバ積極論ヲトルナリ然シテ解散ノ後選舉ヲ行ヒ未タ一度モ開會セサル時モ尙是レ
ヲ解散スルコトヲ得ルヤ否ヤ余ハ積極論ヲトルモノナリ何トナレハ新議會ハ全ク舊議會ト關係ナク夫レ
ヲ解散スルハ議會ノ行動ニ鑑ミテ以テ解散スルモノナリトイヘモ天皇ノ大權ノ自由ニ存スル故ナリ
**第四十五條、衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシ
メ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ是レヲ召集スヘシ**

本條ハ議會ノ爲メニ永久ノ保障ヲ與フモノナリ即チ衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅令ヲ以テ新ニ議
員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ召集スルモノトス蓋シ解散トハ衆議院議員ヲシテ議員タル
ノ資格ヲ消滅セシメ議會ヲ閉ヅルノ謂ニシテ停止ト異ナルコト勿論ナリ故ニ召集セラレタル時ハ新議員
全ク舊議員ト異ナルコトナキモ前後兩議會ハ全ク何等ノ關係ヲ有セサルモノナリ今若シ解散後新ニ召集
スルノ時期ヲ一定セサル時ハ政府ノ便宜上又政界上議會ヲ召集セシメテ其極議會ノ存立スコトナキニイ
タルヘシ然シテ各國ニ其實例ナキニアラス故ニ是レヲ恐レテナリ

**第四十六條、兩議院ハ各其總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ
ピラキ議決ヲナスコトヲ得ス**
出席議員三分ノ一ヲザル時ハ一院ヲ成立スルニ足ラサルナリ故ニ議事ヲヒラキ議決ヲナスコトヲ得ス
抑本條ト次條トハ議事規則ノ一部分ヲ憲法上ニ規定スルモノナリ
總議員トハ召集ニ應シタル議員ノ總數ヲ云フニアラスシテ法律上議院ヲ組織スル議員ノ總數ヲ云フ出
席トハ唯出院シタルノミヲ云フニアラスシテ議事ヲヒラキ或ハ決議ヲトル時現ニ議場ニ出席シ居ルモ
ノヲ云フ

**第四十七條、兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決ス
ル所ニヨル**
過半数ヲ以テ決マトルハ議事ノ通則ナリ所謂過半数トハ出席議員ノ過半数ヲ云フ可否同數ナル時ハ議
長是レヲ決ス
出席議員ノ數ヲ算スルニ當リ議長ヲ算入スヘキヤ本條ハ是レカ明答ヲ與ヘス若シ算入ストセハ議長ハ

通常ノ表決ト決裁票トノ二票ヲ有スルコトナルナリ即チ例ヘハ可説ノ數百人アリ否説ノ議員九十九人アリ議長ヲ入レテ百人トナル是レ可否同數ナリ故ニ議長ノ決スル所ニヨルヘシ故ニ表決ト決裁票トノ二權ヲ有スルコトナルヘシ議長ノ有スル表決權ハ各國ノ主義一様ナラズ乃チ

- (一) 通常表決權ト決裁票權ト共ニナキモノ
 - (二) 是等二權ヲ合セ有スルモノ
 - (三) 通常表決權ナキモ決裁票權ヲ有スルモノ
 - (四) 通常表決權ヲ有スルモ決裁票權ヲ有セサルモノ
- ノ如ク四種アルナリ我國ニ於テハ此第三説ヲトル即チ表決權ヲ有セスシテ唯決裁票權ヲ有スルノミト解スルヲ正當ナリト信ス

第四十八條、兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニヨリ秘密會トナスコトヲ得

議院ハ國民ヲ代表ス故ニ其議事進行ハ是レヲ萬人ト目前ニ公ニスヘシ即チ兩議院ノ議事ハ是レヲ公開スルコトヲ原則トス公開トハ制限ナク何人ニモ自由傍聴ヲユルスヲ得公開主義ハ實ニ代議制度ニ必要ナルモノナリ但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニヨリ秘密會トナスコトヲ得然シテ或場合ニ於テ秘密會トナスコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ必シモ秘密會トナスコトヲ要スト云フ主意ノ規定ナラサル故ニ秘密

會トナスト否トハ議院ノ自由ナリ故ニ政府ノ要求アリトイヘトモ其請求ニ應シテ秘密會トナスノ義務ナシ

何故ニ公開主義ヲトル必要アルヤ選舉人ハ代議士ニ委任訓示ヲナスヲ得シテ唯其人ヲ信シテアケテ代議士トナスノミ故ニ常ニ其人ノ舉動ニ注目シテ其信用ニ背反スル行爲ナキヤ否ヤヲ監視スルノ必要アリ加之衆庶ノ目前ニ公開セサル時ハ公議輿論カ議員ノ行爲ヲ監督スルコト能ハス從ヒテ政府ト議員ト相一致シテ惡ヲ計ルノ恐レアル所以ナリ

第四十九條、兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

本條ニヨリ兩議院ハ他ノ院ノ同意ヲマタスシテ別々ニ天皇ニ上奏スルコトヲ得上奏トハ文書ヲ捧呈シテ天皇ニ奏スルヲ云フ或ハ勅語ニ對シ奉リ或ハ慶賀吊傷ノ表辭ヲ奉リ或ハ意見ヲ建白シ請願ヲ陳疏スルノ類皆其中ニ包含サル、モノナリ上奏モ建議ト同シク議院ト天皇ノ間ニ權利義務ノ干係ヲ創設スルモノニアラス又建議ト異ナル所以ハ其對手ノ異ナルニヨルノミ

他國ニ於テハ議會ニ國務大臣ヲ彈劾スルノ權アル故ニ輔弼ノ任ヲツクサ、ルコトヲ直接ニ攻撃スルコトヲ得レハ我國ノ議會ニハ此權ナキ故ニ本條ノ上奏權ヲ以テ議會カ大臣ヲ攻撃スル唯一ノ武器トス

第五十條、兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

本條ハ第三十條ト相マツモノニシテ日本臣民ハ天皇行政府若シクハ議院ノ何レニテモ請願書ヲ呈シ得

ルナリ然シテ議院ニ提出スル手續ハ議院法第十三條ニ規定ス請願ハ前述ノ如ク是レヲナスモノト受クルモノトノ間ニ權利義務ノ關係ヲ生スルモノニアラス然シテ如何ナル種類ノ請願ハ是レヲ受理シ將タ是レヲ受理セサルヘカラサルヤ若シ是レヲ受ケタル時ハ如何ナル處置ヲナスヘキヤハ議院法及ヒ議院ノ内規ニ於テ定ムル所ニヨルヘシ請願ハ唯政府ノ注意ヲ喚起スルノミ故ニ請願ヲウクルノ義務アルモ必是レヲ議事ニ附シ又ハ裁決スルノ義務ナシ然シ乍其請願ヲ理アルモノト見做シ立法ノ手續ヲ要スル時ハ議院通常動議ノ方法ニヨリテ法律案トナサンコトヲ發議シ又ハ政府ニ質問又ハ報告ヲ要求スヘキモノト思惟スル時ハ意見書ヲ添ヘテ請願書ヲ政府ニ送致シ質問若クハ報告ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條、兩議院ハ此憲法及議院法ニカ、グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

議院ハ議事規則其他スヘテ内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定メ以テ各議院ヲ拘束スルコトヲ得然シテ此等ノ規則ヲ以テ憲法及議院法其他諸規則ヲ變更スルコトヲ得ザルコト勿論第三者ニ對シテ效力ヲ有スルモノニアラス

内部ノ整理ニ必要ナル諸規則トハ議長ノ推選議長及ヒ事務局ノ職務各部分設委員ノ推選委員ノ事務職事規則議事記錄請願取扱規則議員請暇規則及ヒ議院會計ノ類是レナリ議院ニテ一旦内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定メタル時ハ必是レヲ永久ニ保有スヘキヤ將タ是レヲ改正スルコトヲ得ルモノナラザル

ト云フニ議員ノ改選毎ニ是レヲ改正スルモノ若シクハ改選前ニ是レヲ改正スルモ議院ノ自由ナリトス

第五十二條、兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタル時ハ一般ノ法律ニヨリテ處分セララルヘシ

議院内ニ於テ一般ノ法律規則ニフル、所ノ言論ヲ大スモ議院内部ノ規則ニヨリテ懲戒セラル、時ハ格別司法裁判所ノ權限外ニタツモノトス蓋シ本條ハ議院ノ爲メニ言論ノ自由ヲ認ム是レ一ツハ議院ノ權利ヲ尊重シ從ヒテ各議員ヲ遇スルノ厚キト一ハ議院ニ完全ナル言論ノ自由ヲ認メテ立法ニ關シ議院ヲシテ忌憚ナク討議セシメ意見ヲ吐露スルコトヲ得セシメントスル故ナリ

此自由ハ各院ノ會議ノミナラス其部會並ニ委員ニモ是レヲ適用ス而シテ言論ノ自由ハ議會ノ獨立議員ノ自主ヲ全フセシムルガ爲メニ最モ必要ナルモノナルカ故ナリ然レモ議員ニシテ此自由ヲ亂用シテ他人ヲ誹毀スル等ノコトアル時ハ議院ノ規律ニヨリ議院自ラ是レヲ制止シ又ハ是レヲ懲戒ス又自ラ其言論ヲ院外ニ公ニシタル時ハ一般普通ノ法律ニヨリテ處斷ス

第五十三條、兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ヲクシテ逮捕セラル、コトナシ

本條ハ前條ト同シ各議員ニ特別ノ保護ヲ與フルヲ目的トセルモノナラスシテ立法權ヲシテ行政權ヨリ獨立セシムルヲ目的トシ其ノ院ノ各議員ヲシテ忌憚ナク充分ニ其獨立ヲツクサシムルニアリ若シ本條ノ規定ナク何時ニテモ議員ヲ逮捕スルコトヲ得ルモノトスル時ハ行政權ヲ以テ嫌疑アル議員ヲ拘引シテ其院ノ議事ニ與ラシメス以テ反對黨ノ勢力ヲ減削スルコトヲ得ルシ然レ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スル罪ナル時ハ罪狀ノ重大ニシテ國家ヲ危殆ナラシムルカ又ハ政府ヲ策畧ノ爲メニ嫌疑ヲ蒙ラシムル余地ナキ故ニ其院ノ許諾ナクシテ是レヲ逮捕スルモ前述ノ非難ナク司法權ヲ執行スルコトヲ得ルモノナリ故ニ此ニ例外ノ場合ハ先ツ應急ノ手段トシテ是レヲ逮捕シ後レ議院ニ通告スヘク其他ノ犯罪又ハ準犯罪等ナル時ハ議院ノ承諾ヲ得テ始メテ是レヲ逮捕スルコトヲ得ルナリ

承諾ハ其院ノ議長一人ノミノ承諾ニテ可ナルカ又ハ其議院ノ承諾ヲ必要トスルカ是レ議院ノ自由ニ放任シテ可ナルヘシ然シテ行政權司法權ハ策畧ノ爲メニアラスシテ是レヲ逮捕セントスルモノナル時ハ其罪障ノ有無ヲ究メスシテ是レニ承諾ヲ與ヘサルヘカラス何トナレハ本條ハ罪ノ有無ヲ探究スル主意ニアラスシテ其立法權ノ行使ノ獨立ヲ擔保スル主意ナレハナリ

本條ノ適用ヲ受クルハ會期中ナルコトヲ要ス會期中トシ召集ノ後閉會ノ前迄ノ期間ヲ云フ議會カ開會中ナラサル時ハ議員ハ存スルモ議會ナキノ姿ニアルモノナル故是レカ承諾ヲ表示スル議會ナルモノナシ故ニ開會ヨリ閉會迄ヲ會期中トナス

第五十四條 國務大臣及ヒ政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

議會ノ議事ニ際シ議場ニ辨明スルコトヲ許シ又ハ國務大臣ハ輔弼ノ任ヲ有シ天皇ニ對シテ責任ヲ有スルモノナル故ニ何時タリトイヘレ議會ニ臨席シ充分其意見ヲ議會ニ於テ述ヘシムル所以ナリ即チ天下公衆ニ對シ心意ヲ表示シ正理ヲ公議ニ訴ヘ嘉謀ヲ時論ニ求メ底蘊ヲ叩キ遺憾ナカラシムルコトヲ目的トスルナリ

外國ニ於テ國務大臣或ハ政府委員ハ議院ノ請求ニ應シテ出席スルノ職務アリトセリ我憲法ハ本條ヲオキ出席及ヒ發言ノ職權アルモノトセリ而シテ國務大臣及ヒ政府委員ハ出席シ及ヒ發言スルノ權利アルモ議員ニアラサルモノナルカ故ニ其決議ニ加ハリ可否ノ意ヲ表示スルコトヲ許サス又議員ニアラサルモノナルカ故ニ懲罰權ヲ及ホスコトヲ得ス故ニ不法ノ處爲アル時ハ宜シク天皇ニ是レヲ奏スヘシ本條ハ「何時タリトモ」ト規定シテ其時ニ制限ヲ加ヘサルナレレ議院法四十八條ハ議員ノ發言中發言スルコトヲ得スト制限セリ討論終結ノ後ハ是レヲ許サヤ討論終結後トイヘレ未タ決議セサル時ハ議會ノ議事中心トイフコトヲ得ヘシ然レ討論終結トハ一切ノ討論終結トナシ其國務大臣政府委員ノ發言ヲモ包含スルモノト解スヘシ故ニ其時ハ何人モ發言スルコトヲ得ス何トナレハ決議前討論終結後ノ發言ハ其決議ノ上ニ至大ノ影響ヲ有スルモノナル故ニ其時ニ當リテ國務大臣政府委員ニノミ其特權ヲ有セシムヘキ者ニ

アラサル故ナリ

第四章 國務大臣及樞密顧問

國務大臣ハ憲法上ノ國家最高ノ官府ナリ樞密顧問ハ天皇至高ノ顧問府ナリ其職權ハ皆憲法ニ之ヲ規定ス而シテ其官制ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルモ勅令ヲ以テ廢止スルコトヲ得ス又其憲法上定マレル權限ヲ増減變更スルコトヲ得ス

國務大臣ハ輔弼ノ重任ヲ荷ヒ詔命ヲ宣奉シ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ニ副署シ政務ヲ施行ス樞密顧問ハ重要ノ諮詢ニ奉答シ國家樞務ノ謀議ニ參ス

大臣顧問共ニ國家最高ノ官吏ナレバ其官吏タル性質ハ一般ノ官吏ト異ル所ナシ故ニ本法第十條ノ規定ニ依リ其官制俸給ヲ定メ是レカ任免黜陟ヲナスハ一ニ天皇ノ大權ニ屬ス

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

凡テ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼スルノ職ニ居ル者ナリ而シテ其職ヲ盡サ、ル時ハ其責任アリ

國務各大臣ハ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ニ副署ス即チ天皇ノ憲法上ノ大權ノ行使ハ國務各大臣ヲ經由スルヲ法トス大臣必ス是ニ副署スルノ責任アリ然シ二三ノ大臣是ニ副署シテ總國務大臣カ副署ヲナサ、ルモ憲法違反トナラス

副署トハ何ソヤ副署ハ國務大臣カ天皇ノ命令ヲ奉行セルコトヲ證スル者ナリ法令ニ副署ヲ欠クハ違式ナ

リ故ニ副署ヲ要ス然レハ副署ハ承諾ニ非ス即チ大臣ハ天皇ノ憲法上ノ大權ヲ行使スルニ際シテ是ニ承諾スルノ權ナキハ我國體及ヒ憲法定定ノ當時ニ鑑ミテ明白ナルヘシ是レ吾人カ聊カ反對說アルニ係ラズ副署ハ承諾ニ非ストイフ說ヲ採ル所以也

元來法令ハ大臣ト皇位トノ合意ニ依リテ發スルニアラス天皇ハ主權者ナリ大臣ハ憲法上ノ機關ナリ故ニ國權ノ發動ニ大臣ハ毫モ關係スル處ナシ只國家ノ統治機關トシテ輔弼ノ任ニ當リ詔令ヲ宣奉スルノミ故ニ天皇ハ大臣ニ其承諾ヲ請求スルニアラス命スルナリ故ニ吾輩ノ說ヲトル時ハ大臣ハ副署ヲ拒ムノ權ナシ何トナレハ副署ハ國務大臣タル官吏ノ職權ノ一ニシテ拋棄シ得可キ職務ニアラサルナリサレハ大臣ハ自己ノ見識ヲ以テ君主ノ裁可シタル法令ノ公布ヲ拒ムコトヲ許サス主權者ノ命令ナレハ其大臣タルノ地位ニ居ル者ハ必ス是ニ從フヘシ即チ副署ハ大臣ノ職權ニシテ權利ニアラサルナリ

且ツ政治論トシテ見ルモ君主ト大臣トノ政略上法制上ノ議論相合ハスシテ意見カ衝突シタルハ何レニ重キヲ置ク可キヤ君主ノ意見ニ重キヲ置ク可キモノナリト云ハサルヘカラス君主ハ違憲ニアラストイヒ大臣ハ違法ナリト主張シテ法令ノ副署ヲ拒ムコトヲ得ルトセンカ然ラハ大臣ハ憲法違反如何ヲ審判スル權アルニ至ルヘシ大臣ノ意見ニテ君主ノ意見ヲ排斥スル能ハサルコト勿論ナリ從テ意見各々相分カル、時ハ大臣ハ君主ノ意見ニ從フノ外ナク自己ノ意思ニ反シテモ猶君主ノ命スル處ニ從ヒ副署スルコトカ大臣ノ義務ナリ其職務ノ執行ナリ

大臣ノ責任論國務大臣ノ責任ハ輔弼ノ職務ニ對スル者ニシテ職務執行ノ行爲ニ付キテノ責任ナリ普通何レノ官吏ヲ問ハス官吏トシテ國家ノ政務ヲ施行スル時ハ職務ニ付キテ一般ノ責任アリ即チ監督者ニ對シテ自個ノ職務ヲ全フスルコトニ付キテノ責任アリ大臣ノ責任モ亦是レト異ナルコトナシ吾輩ハ此ノ如ク平易ニ解釋シテ止マントス

普通ノ説明ニ依ルトキハ大臣ノ責任ハ君主ノ行爲ニ付キテ責任ヲ有スル者ナリト説明ス即チ大臣自己ノ過失ニアラス君主ノ過失ニ付キ君主ニ代リテ責ヲ有スル者ナリトスル者アリ是レ國法學者ノ多數ノ解釋ナリ憲法ノ明文上此ノ如ク規定セラル、ナラバ何ノ議論ナシト雖モ憲法上何等ノ明文ナキ時ハ此解釋ヲトルヲ好マザルナリ是レ責任トイフ普通ノ觀念ト相反ス凡ソ責任トハ其權限内ニ屬スル事ハ己レノ行爲ニ付キテ責任ヲ帶ビ得レト他人ノ行爲ニ付キテ責任ヲ負フトイフコトハ原因結果ノ連絡ナキコトニシテ法文ニ規定ナキ限りハカ、ル道理アルベキコトナシ大權ノ行使ハ君主ノ權限ナリ大臣ノ權限ニアラス故ニ責任トイフ普通ノ觀念ト相容レサル議論タルヤ疑ナカルヘシ

或曰ク君主ハ神聖ニシテ犯ス可カラス故ニ大臣カ君主ニ代ハリ君主ノ過失ニ付キテ責任アリト然シ是レ亦不條理ノ説明ナリ前ニ説明スル通り神聖不可犯トハ其行爲ニ付キテ法律ヲ以テ責問スルコトヲ得サルコトヲ意味シ責任ヲ除外シタルナリ憲法上責任ナシト第三條ニ明言シタル行爲ニ付キ大臣代リテ其責任アルトハ前後相矛盾スルノ解釋ナリ是レ決シテ吾輩ノトラサル解釋ナリ

或曰本條ハ國會ニ對シテ責任アルコトヲ意味スト是レ特別ノ憲法ノ下ニ於テハ或ハ然カル可キ解釋ヲトルコトヲ得ヘキモ一概ニ論斷スルコトヲ得ス即チ換國又ハバイエルンノ憲法ニ於テノ如ク大臣ハ國會ニ對シテ責任ヲ有スト明文上規定スル時ハ勿論此解釋ヲ取ルコトヲ得可シ乍然其明文ナキニ此解釋ヲ採ル時ハ明文以外ニ走ル者ニテ極メテ曲解セルモノトイフヘク我國ノ如キハ勿論此制度ナク只單ニ大臣ハ責任ヲ有ストノミ規定ス故ニ此場合ニ於テハ一般ノ責任ニ付キテノ如ク解釋スヘシ即チ官吏ノ責任ハ其職務ヲ命シタル人ニ對シテ職務上ノ責任アルノミ

要是大臣ノ責任ハ大臣カ自己ノ職務ニ付キテノ責任ニシテ君主ニ對シテ負フ者ナリト斷言シテ可ナリ責任ハ連帶ナルヤ否ヤ或ハ連帶ナリトイヒ或ハ連帶ナラストイヒ學說未タ一定セスト雖モ我憲法ノ解釋トシテハ疑モナク各大臣各別ノ責任ヲ有シ敢テ連帶ノ責任ヲ有セサル者トス何トナレハ憲法上内閣トイフ制度ヲ認メス國務各大臣ヲ認ムルノミ即チ本條ニ依ルトキハ大權ヲ輔弼スルハ各大臣單獨ノ責任ニシテ連帶ノ責任ニアラス内閣トイフ一種ノ連合體カ輔弼ノ任ニ當リ責任ヲ有スルニアラスシテ各大臣カ各單獨ニ是レニ任ス故ニ憲法ニハ殊更ニ國務各大臣トイヒテ單ニ國務大臣トイハサルナリ亦内閣トイハサルナリ

歐洲ノ或立憲政體國ニ於テハ内閣トイフ一種ノ國體アルカ如クニ見做シ連帶責任ヲ以テ進退スル一種ノ合議連合體ナリトナス者アリ所謂政黨政治ノ國ニ於テ或ハ此主義ヲ取ル國アリ乍然我憲法ハ此主義

ヲトラス政黨内閣ノ制度ヲ取ラス國務各大臣ハ各自獨立ノ意見ヲ以テ大權ヲ輔弼シ自己獨立ノ責任ヲ負フ者トス故ニ連帶責任ナラス

輔弼ノ任務ハ法律問題ノミニ止マラサルナリ大臣ハ君主ノ法律顧問ニアラス凡テ政治上ノ事ニ付キテ轉弼スタヘト憲法ニ違ハス法律ニ矛盾セストモ大臣カ國家ノ目的ヲ誤マリ職務ヲ當然ニ行ハサルトキハ君主ニ對シテ責任アリ君主カ憲法上ノ大權ヲ行フニ付キテ法律解釋ノ點ニ付キテ政略ノ點ニ付キテ輔弼スル責任アリ故ニ法律上亦政略上其職務ヲ誤マル時ハ君主カ大臣ノ責任ヲ問フコト勿論ナリ或ハ大臣ニ憲法違反ノ行爲ニ付キテノミ責任アリトイフハ狹キニ失シ又或ハ大臣ニハ民事上形式上政治上ノ責任アリト論スルカ如キ人アルモ是レ憲法上ノ責任ヲ正當ニ解釋セサル無用ノ説明ナリ

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ答ヘ重要ノ國務ヲ審議ス憲法上ノ大權ノ行使ニ付キテ是レニ諮詢スルノ府ナリ大臣ト共ニ大權ノ行使ニ參與ス而シテ大臣ハ内ニアリテ補弼スルノ外尙ホ外部ニ對シテ大權ノ行使ヲ司トル者ナリ顧問ハ専ラ内部ニアリテ諮詢ニ答フルノ外副署スル等ノ事ナシ是レ職務行使ニ付キテ異ナル點ナリ亦憲法上ノ要件トシテハ凡テ大權ノ行使ハ大臣ヲ經由スルヲ法トスレ凡テ是ヲ樞密顧問ニ諮詢スルノ要件ナシ君主カ必要トミトムル場合及ヒ事項ニ付キテ諮詢ス故ニ本條ニモ樞密院官制

ノ定ムル處ニ依リ是ニ諮詢スト規定セリ而シテ樞密院官制ハ大權ヲ以テ之ヲ定ム
 或論者ハ樞密院ノ不必要ヲ説クコトアリ、是レ至當ノ言ニアラサルナリ君主ハ一國ノ統治權ヲ總攬シ行
 政司法立法ノ諸權ヲ一身ニ握有シ給フ故ニ君主ハ行政官ノ上奏ニノミ從ハスシテ國家中樞ノ意見ニヨ
 リテ一國全体ノ國利民福ヲ計ラサルヘカラス是ヲナスニ際シテハ議會亦ハ政府ニ關係ナキモノヲ集メ
 テ是レニ諮詢スルノ必要アリ例ハ政府提出ノ豫算案法律案ヲ議會ニテ否決シ又ハ甚シク修正シタル場
 合ニ於テ政府ハ是ヲ以テ國是ニ反スルモノト認メ議會ヲ解散スルニアラサレハ責任ヲ以テ行政ノ任ニ
 當ルコト能ハスト上奏シ議會ハ行政政府ノ處置ヲ違憲ナリト云ヒテ内閣ノ更迭ヲ上奏スルカ如キ場合ニ際
 シテ天皇ハ行政政府又ハ議會ノ意見ヲ其儘ニ採用セス先ツ之ヲ樞密院ニ諮詢シ其意見ヲ聞キテ后チニ決
 スルナリ是レ最モ穩當ナル處置ニシテ天皇ノ統治運用ノ圓滑ヲ得ルニ欠クヘカラサルモノナリ
 又憲法第一章ニ列記サレタル天皇ノ大權ヲ以テ親裁シ給フ事項ハ極メテ重大ニシテ又極メテ繁多ナリ
 條約締結ノ如キ宣戰媾和ノ如キ戒嚴宣告ノ如キ官制々定ノ如キ緊急勅令ノ如キ財政上ノ緊急處分ノ如
 キ此等ハ或外國ニ於テハ之ヲ議會ノ協賛ヲ經テ決スヘシトナスノ例アレト我帝國ノ憲法ハ之ヲ皆ナ舉
 ケテ天皇ノ親裁ノ事項トシテ敢テ議會ノ關涉ヲ許サルナリ是ヲ以テ天皇ハ此等ヲ裁スルニ際シテ最
 高ノ顧問府トシテ樞密院ヲオキテ之ニ諮詢スルノ要アリサレハ樞密顧問ハ自ら進ンテ發言シ國務ニ意
 見ヲ述フルニアラスシテ君主ノ諮詢アリテ后初メテ之レニ應フルノ職務アルモノナレトモ亦極メテ

必要ナル機關ト云ハサルヘカラス

第五章、司法

天皇ハ統治權ヲ總攬シ給フ司法權ハ統治權ノ一部ナレハ是レ亦々天皇ニ屬スルモノナルヲ勿論ナリ然レモ是ヲ行フニ際シテハ憲法上ノ機關ヲ設ケテ法律ノ規定ニ據リテ之ヲ行ハシム裁判所即チ是レナリサレハ裁判所モ他ノ官府ト同シク天皇ノ統治スル機關ニシテ獨立シテ司法權ヲ行フモノニアラス唯タ憲法上裁判所ノ職務ト定メラレタルコトハ行政官或ハ議會ノ容喙ヲ許サ、ルナリ普通ニ裁判所ノ獨立ト云フ所以ハ裁判所カ天皇ノ統治權以外ニ獨立スルノ意味ニアラスシテ他ノ統治機關ト相離レ互ニ侵サ、ルモノナルコトヲ曰フナリ

司法トハ普通裁判所ノナス所ノ事項ノ總稱ナリ司法トハ人民ノ私權カ侵害サレタルハ是ニ對シテ之ヲ保護スルコトナリサレト此解釋ハ少シク狹意ニ失セリ公法上ノ事ヲモ裁判所ニテ之ヲ審判ス裁判所カ司法ヲナスニハ法律ノ條規ニ準據シ天皇ノ名ニ於テ是ヲ行フ司法官ハ獨立ニ法律ヲ解釋シテ是ヲ適用シテ審判ス其審判ニ際シテハ上級ノ司法官ノ言ヲ容レヌ自己ノ解釋ヲ以テ單獨ニ之ヲナスヲ得是レ行政官ト異ナル處ナリ行政官ハ凡テ上級官府ノ監督ノ下ニアリ故ニ下級ノモノハ上級ノモノ、意見ニ是非トモ服從セサルヘカラサルナリ是レ兩者相異ナル所ナリ

第五十七條、司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フコト及ヒ裁判所ノ構成ハ之ヲ法律ニ依リテ定ムルモノナルコトヲ明カニシタルナリ

天皇ノ名ニ於テ是ヲ行フトハ如何、我憲法ニ於テハ天皇ハ主權者ニシテ統治權ヲ總攬シ立法、司法行政ハ凡テ天皇ノ統治權ニ發ス乃チ司法權モ天皇ニアリテ是ヨリ發動シテ裁判所ヲ經テ行フナリ故ニ天皇ノ名ニ於テト明記スルハ司法權ノ源泉ハ天皇ニアルコトヲ明ニシタルモノナリ本章ノ初メニ説明シタル處ヨリ考フレハ此理自ラ明カナラン

又裁判官ハ天皇ノ委任ニ依リテ裁判スルモノナレト裁判スルニ當リテハ敢テ上級官ノ指示ヲ受ケス自己ノ意見ヲ以テ法律ヲ解釋適用シ事ヲ審判スルモノナルコトハ前ニモ説明シタル處ナリ本條ニ法律ニ依ルトアルハ法律ヲ以テ裁判官ノ據ルヘキ唯一ノ標準トナスコトナリ即チ法律ノ條規ニ從テ受理シ審問シ判決シ執行スルナリ此ノ如ク裁判ヲナスニ必ス法律ニ準據スルトシタルハ裁判ノ公平ヲ保タンカ爲メナリ裁判官ノ行動ハ凡テ法律ト始終スルモノナリ故ニ司法權ハ法律ニ依リテ行ハル、モノニシテ君主又ハ行政官府ノ命令又ハ訓示ニ依リテ左右サル、モノニアラサルナリ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム凡テ官制ハ勅令ヲ以テ是ヲ定ムルコトヲ通則トシ法律ニテ之ヲ定ムルハ特例ナリ法律モ勅令モ共ニ國權發動ノ形式ナル故ニ法律ヲ以テ其構成ヲ定ムルモ命令ヲ以テ之ヲ定ムルモ共ニ其ノ國家ノ官府タルニ於テ異ナルコトナシ唯之レカ官制ヲ定ムルノ形式ノ異ナルニ止マル

ナリ

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フルヲ以テ之ニ任ス裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラルトナシ懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ裁判官ノ獨立ヲ保障シタルモノナリ以テ裁判官ノ任免ノ手續ヲ鄭重ニシタルナリ裁判官ハ他ノ行政官ト等シク君主之ヲ自由ニ任免スルコトヲ得レト法律ニヨリテナスニアラサレハ之レヲナシ得サルコトヲ定メタルナリ茲ニ裁判官トイフハ唯判事ノミヲ曰フ判事候補檢察書記執達吏ヲ包含セス檢事ハ司法行政官ニシテ上官ノ命令ニ從フモノナルヲ以テ本條以外ニ立ツモノナリ

刑法ノ宣告ニ由ルトハ刑法ニ於テ裁判官ヲ免スル場合ヲ定メオキ其條項ニ該當スルモノハ其職ヲ免スルトイフ意味ニアラスシテ刑法上ノ宣告ヲ受ケタルルルハ此レヲ原因トシテ職ヲ免ストノ意ナリ別ニ刑法ニ裁判官ヲ免スル場合ヲ列記シタルニアラザルナリ蓋シ裁判ノ公明ヲ保ツニハ裁判官ヲシテ他界ノ權力ヨリ獨立シテ權威ノ干涉ヲ離レ不羈ノ地位ニ立タシムルヲ必要トス是ヲ以テ刑法ノ宣告又ハ懲戒裁判ノ判決ニ依リ免職サル、ノ外ハ終身其職ニアルモノトス而シテ刑法ノ宣告トハ重罪輕罪ノ判決ヲ受ケ其結果トシテ社會ノ公務ヲトル能ハサル場合ヲ指示ス故ニ今刑法ノ宣告ヲ受ケ有罪ナリトノ判決ヲ受ケタリト雖モ公務ニ就ク能ハサル結果ヲ生セサルルル乃チ罰金拘留ニ止マルルルハ其職ヲ其意ニ反シ

免セラル、トナシ懲戒處分トハ職務ノ過失アル者トシテ懲戒裁判ニ附セラレ有罪ト確定シタルルルニ其職務ヲ免スルコトヲイフナリ

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルルルハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審公開ヲ停止ムルコトヲ得

本條ハ裁判ノ對審判決ハ是ヲ公開スルコト其例外トヲ定メ裁判ノ公正ヲ保障スルモノナリ
裁判ノ對審ヲ公開スルハ裁判ノ公平ヲ保チ裁判官ノ偏私ヲ防クノ意ナリサレハ何人モ自由ニ之ヲ傍聽スルコトヲ得又其判決ハ何人モ之ヲ知ルコトヲ得ルナリサレト一切ハ裁判對審ヲ公開ニスルルル其ノ中ニハ或ハ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルモノアルコトアリ依テ此等ノ場合ノ或ルモノハ是ヲ法律ニテ規定シオキ其場合ニ該當スルルルハ其公開ヲ止ムルナリサレト法律ニハ別段ノ條規存スルコトナクモ其對審カ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルルルハ内亂外患ニ關スル罪及ヒ多衆嘯嘩罪ノ類ニシテ人心ヲ煽動刺衝シ公安ヲ妨クルコトヲ曰ヒ風俗ヲ害スルルルハ即チ姦通離婚ノ裁判ノ如キ是ヲ公衆ノ目前ニ公ニスルルル醜辱ヲ流シ風教ヲ傷クルモノヲ曰フナリハ公開ヲ停止スル場合ト雖モ辯護士原告證人等ノ出廷アルコト勿論ナリ其他人ト雖モ裁判長ノ許シアルルルハ入廷ノ特許ヲ受クルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

普通裁判所ハ民事刑事ヲ審判ス然レ特種ノ事物ニ關シテ特別裁判所ヲ設ケルハ必ス法律ヲ以テス命令ヲ以テ司法權ノ作用ヲ變更スルコトヲ得サルナリ現行法律ニ於テ認メタル特別裁判所ハ(1)海陸軍ノ軍法會議(2)領事裁判所(3)台灣法院(4)集治監内ノ典獄裁判所ノ四ナリ然シテ其管轄ハ法律ヲ以テ規定ス行政命令ヲ以テ是レヲ定メサルナリ即チ若シ夫レ法律ノ外ニ於テ非常裁判ヲ設ケ行政ノ勢威ヲ以テ司法權ヲ侵蝕シ人民ノ爲メニ司直ノ府ヲ視奪スルガ如キ憲法是レヲ許サス

第六十一條、行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

本條ハ行政裁判所ト司法裁判所ノ關係ヲ定メタル者ナリ行政裁判所ニ屬スベキ者ハ司法裁判所ニ於テ受理スベカラサル旨ヲ明示シタル者ナリ行政訴訟トハ行政ノ違法處分ニ依リテ權利ヲ毀損セラレタリトスル者カ救濟ヲ求ムル方法ナリ故ニ行政訴訟ヲ提起得ル要件ハ第一ニ行政ノ違法處分ニ依ルコトヲ要ス違法處分トハ實質上若シクハ形式上法則ニ違フコトヲ要ス行政官ノ處分カ實質上不法ナルコトアリ亦其ノ手續キ上法律ノ要件ヲ欠クコトアリ亦權限ヲ超越スルコトアリ是レ等ノ場合ヲ廣ク總稱シテ違法處分ト云フ處分ニ對スルモノナル故行政官ノ發スル行政規則ニ對シテハ起スコトヲ得ス亦大權處分ニ對シテ行政訴訟ヲ起スコトヲ許サズ第三ニ行政訴訟

訟ハ權利ノ毀損ニ對シテ起ル即チ權利毀損ヲ要件トスルナリ權利ト云フハ訴願ノ如ク利益ト云フ意味ナラス亦單純ニ違法ナリト雖モ必スシモ一人ノ權利問題トナラサル場合アリ或ハ疑ヲ抱キ違法處分ナラハ必ス權利ヲ毀損ス違法處分ト權利毀損ト兩ツノ條件トスル必要ナシト申ス人アラン其レハ誤リタル論ナリ法律カニツノ者ヲ條件トシタルハ違法處分必スシモ一個人ノ權利問題タラサル場合ヲミトメタル故ナリ一國ノ法特ニ行政ノ法則ハ私法關係ヲ規定スル民法ト目的ヲ異ニシテ或一部分ハ個人ノ私權ヲ保障シ或部分ハ國家機關ノ働キヲ管督スル爲メニ設ケラレタリ行政ノ規則ハ此ノ二様ノ目的アル違法ノ行爲ナリモ必スシモ常ニ一人ノ權利ノ毀損トハナラサルナリ故ニ此條件ヲ要ス第三ニ法令ノ明文上行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許ルサレタル場合ニ該當スルコトヲ要ス即チ行政裁判所法其他特別法ニテ是ヲ許ス場合ナルコトヲ要ス行政裁判法ハ概括的ニ左ノ五項ヲ列記シテ行政訴訟ノ提起ヲ許ス即チ(1)海關稅ヲ除クノ外租稅及ヒ手数料ノ賦課(2)租稅滯納處分(3)營業免許ノ拒否又ハ取消(4)水利及ヒ土木(5)土地ノ官民有區分ノ査定是レナリ茲ニ例外アリ

(1) 假令以上ノ要件ヲ備フルト雖モ行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス是レ亦特別ノ規定ナリ已ニ規定アル故ニ解釋トシテハ何ノ議論モナキ處ナレモ學說上ハ是レヲ誤謬ナリト信ス今進ミテ其ノ理由ヲ説カンニ行政裁判所ハ損害賠償ノ訴ヲ受理セスト云フ道理ナク亦實際上受理スルコトカ目的ニカナフナリ此誤リタル學說ノ吾憲法上ミトメラレクル所以ハ從來何事ニテモ金錢上財産上ノ争ヒナレハ民事ナリト誤解シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス乍然公法上ノ法律關係ヲ明白ニ研究スルルハ公法上ノ損害賠償ハ公法ノ裁判所ニ於テ判決スヘキコト當然ニシテ論ヲ待タス亦一方ニ於テ從來行政處分ニ對シテハ損害賠償ヲナス限リニアラスト云フ誤解アルニ依リテ行政裁判所ハ受理セスト定マレリ故ニ損害賠償ノ訴訟ハ行政裁判所受理セスト云フ誤解タル規定アルニ至レリ

例外(2) 行政訴訟ノ性質上行政裁判所ハ行政權ノ認定ニ屬スル事項ヲ審判セス凡ソ行政官ハ必スシモ法則ノ解釋適用ニ止マラス法律命令ノ範圍内ニ公益ニ便宜ナリト認ムル所置ヲナスヘキ場合多シ此場合ニ權利毀損問題違法問題ノ起ラサルナリナレハ法律カ特ニ行政權ノ認定ヲモ裁判セシメント欲スルルハ其旨ヲ明言スルコトヲ要ス明文ナケレハ審判セスト解スヘキナリ故ニ此例外アリ

以上ノ要件ヲ具備シタル訴訟ハ行政裁判所ノ權限ニ屬ス司法裁判所ノ受理スルコトヲ許サス其司法裁判所ノ權限ニ屬セシメサル所以ハ司法權ノ獨立ノ必要ナルト同シク行政ノ獨立モ亦甚タ必要ニシテ二者相侵サスシテ始メテ充分ノ效用ヲ奏スル者ナリトスル故ナリ

第六章 會計

會計ハ國家ノ歲出歲入ヲ整理スル處ハ行政ノ要部ナリ國家ハ財產ヲ有スルモ是レヲ資本トシテ利殖シ資産ヲ蓄積スルコトヲ主義トセス國政ノ費用ハ國民ヲシテ分擔セシムルヲ通則トナス國家經濟ハ國民分擔ノ經濟ナルカ故ニ國庫ノ盈缺ハ民力ノ消長ニ隨フ民力衰耗シテ國庫充盈ナルコト能ハス國家ノ財力ハ即チ個人ノ財力ヨリ成ルコトヲ願ヒ財政ノ能否ハ營利ノ巧拙ニアラス專ラ民力如何ヲ觀察シテ國庫ノ財政ヲ計劃スヘシ故ニ會計ハ臣民ノ生計財力ト密接ノ關係ヲ有ス故ニ之ヲ慎重ニシ憲法中ニ規定ス

第六十二條、新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ定ムヘシ但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及ヒ豫算ニ定ムタルモノヲ除クノ外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

租稅ハ財政上ノ收入ノ爲メニ無償ニテ資産ヲ強制徵收スル者ナリ然シテ新ニ租稅ヲ課スルニ當リテ議會ノ協贊ヲ必要トシ是レヲ政府專行スルニ任セサルハ立憲政ノ一大美果ニシテ直接ニ臣民ノ幸福ヲ保護スルモノナリ故ニ今新タニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ定ムルコトヲ要ス蓋シ是レ臣民ノ權利ニ重大ナル關係ヲ有スル故ナリ古代ハ立憲政未タ行ハレテ何事ヲナスモ即チ新ニ租稅ヲ課シ亦稅率ヲ變更スルモ政府ノ自由ニ一任シタル者ニシテ敢ヘテ臣民ノ干涉ヲ許サス臣民ノ財產權利上ニ保

障ヲ與ヘサルナリ然作世運ノ進歩ト共ニ臣民ハ臣民ノ協賛ヲ與ヘサル財産ヲ強制徴収スルコトヲ許サ
 ルコトナリ吾憲法ニ於テモ本條ノ規定ヲ見ルニ至レリ租稅ハ統治權ノ作用ヨリ臣民ニ命令シテ徴收ス
 故ニ獻金ノ如キ臣民各自ノ自由意志ヨリ金錢財物ヲ國庫ニ収ムルカ如キ或ハ國家ト臣民トノ間ニ私法
 上ノ關係存在シ其ノ爲メニ國庫ニ納金スルカ如キモノト區別ス可シ又租稅ハ國民一般ニ對シテ賦課ス
 而シテ衆庶ノ納ムル租稅額ヲ定ムル處ノ目標トガ成割合ハ高ヨ稅率ト云フ故ニ土地收用法警察上ノ處
 分ニ依リ或ハ特定ノ土地亦ハ財產ニ對シテ強制徴收權ヲ行フハ是レ租稅ニアラサルナリ
 手數料及ヒ收納金ハ一個人カ特ニ政府ヨリ利益ヲ受クル場合ニ其ノ報酬トシテ國庫ニ納メシムル者ナ
 リ是レ行政命令ニ依リテ定マルモノニシテ國民一般ノ普通義務ニ基クモノニ非ス租稅ト其性質ヲ異ニ
 ス即チ租稅ハ國家全体ノ事業ニ對スル經費ニ充當センカ爲メニ課スルモノニシテ帝國臣民ナル者ハ何
 人モ此負擔ヲ免カル、コト能ハサルモノニシテ手數料ハ個人其人ノ人ノ請求カ或格段ナル行政上ノ處爲ヲ
 求メタル非行政上或事ヲナシ其レニ對スル報酬トシテ納金スル者ナリ何故ニ法律ヲ以テ是ヲ規定スル
 ヲ要セズシテ行政命令ヲ以テ是レヲ定ムルカト云フニ此手數料其他ノ收納金ハ彼ノ統治權ノ作用ニヨ
 ルモノニアラスシテ法律勅令ノ範圍内ニ於ケル行政ノ處分ニスキサル故ナリ手數料ニ三種アリ一ハ行
 政權ノ使用ニ對シテ拂フ者ニシテ特許意匠商標登錄旅行免狀下附等ニ對スル國庫納金ヲ云ヒ他ノ一ハ
 官ノ營造物使用ニ對シテ拂フ處ノ者ナリ即チ學校ノ授業料鐵道ノ切符郵便電信料ノ如キ此種ニ屬シ是

レヲ收納金ト云フ而シテ兩者トモ法律ニ依ラス行政命令ヲ以テ定ムルモノナリ
 國債トハ政府カ内外人民若シクハ會社等ヨリ金錢ヲ借入若シクハ預リヲナシ夫レカ爲メニ生スル償還
 拂戻若シクハ支拂ヒノ義務ヲ總稱スルモノニシテ一國ノ負擔スル負債ナリ故ニ國債ハ社會連帶責任ノ
 主義ニ據リ是レヲ負擔スル政府ニ屬スル處ノ人民ニ於テ是レヲ辨償セサル可カラサル者ナリ故ニ此負
 擔ハ是レヲ行政上ノ負擔ト混同ス可カラス行政上ノ負擔トハ諸官府カ其ノ豫算定額内ニ於テスル負債
 ヲ云フ此行政負債ハ是レ國債同様ニ共ニ國庫ノ負債タルハ異ナルコトナキモ行政上ノ負債ハ議會ノ協賛
 ヲ經ルコトヲ要セス然ルニ國債ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要ス何トナレハ國債ナル者ハ國民ノ增加ス
 ルモノナル故ニ若シ協賛ヲ經サル時ハ吾人ハ其ノ必要ヲ承知セサル國費ノ爲メニ財政ノ一部ヲ強要セ
 ラル、コトナル故ニ必ス帝國議會ノ協賛ヲ要ス
 次ニ亦豫算ニ定メタル者ヲ除ク外國庫ノ負擔トナル可キ契約ヲナスハ亦帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要
 ス是レ別ニ説明スヘキ點ナシ何トナレハ國庫ノ負債ハ一度必ス帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要スト云フ
 原則ノ適用ナリ即チ國債モ豫算モ皆帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要ス然レハ其等以外ニ於テ國庫ノ負債
 トナル者即チ豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負債モ亦帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要ス
 以下本條ニ關スル二三問題ヲアケテ是ニ答ヘン條約ヲ以テ關稅ヲ變更スルコトヲ得ルヤ本問題ハ關稅ハ
 租稅ナルヤ否ヤト云フ問題ト其形ヲ變ス而シテ關稅ハ租稅ノ一種ナリ然シテ租稅ハ法律ヲ以テ是レヲ

定ムヘキコハ第二十一條六十二條ノ明示スル處ナリ然ラハ關稅ハ法律ヲ以テ是レヲ定ムルコトヲ要シ若
主ノ專斷ニ任スヘカラス故ニ帝國議會ノ協贊ヲ要ス
外國ニ軍費補助ノ條約ヲナスルハ帝國議會ノ協贊ヲ要スルヤ吾國ノ憲法ハ第十三條ニ於テ何ノ制限モ
ナサス條約締結權ハ一ニ天皇ノ握有シ給フコトヲ規定ス故ニ條約締結ニハ一切議會ノ干渉ヲ必要トセス
然レ其條約實行ノ手段トシテ租稅ヲ課シ稅率ヲ變更シ又ハ國債ヲ起ス場合ニハ本條ニ依リ帝國議會ノ
協贊ヲフルコトヲ要ス

第六十三條、現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニヨリ之ヲ徵
收ス

前條ニ於テ新タニ租稅ヲ課スルニハ必ス法律ヲ以テスヘキコトヲ定メ本條ニ於テハ現行ノ租稅ハ更ニ法
律ヲ以テ是レヲ改メサル限リハ舊ニ依テ是ヲ徵收スルコトヲ定ム故ニ租稅ノ存廢又ハ修正ハ悉ク法律ニ
依ルコトヲ原則トス現行ノ租稅トハ此憲法ノ效力ヲ生シタリシ時ノ當時ノ租稅ヲ云フ故ニ憲法發布當時
ニ於ケル租稅ニ關スルハ已成ノ事實ヲ認メタルナリ故ニ補則七十六條ヲ見ル時ハ法律命令又ハ何等ノ名
稱ヲ用非タルニ拘ハラス此憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ凡テ違由ノ效力ヲ有ストアル規定ト重複ス
然シナカラ租稅ニ關スルコトハ國民ノ財產及ヒ權利義務ニ關シ重大ナル關係ヲ有スル故ニ重複ヲ厭ハス
特ニ本條ヲ設ケテ是レヲ明白ニシタルナリ

是レヲ外國ニ見ルニ議會カ豫算ヲ議スル際ニハ其レニ隨伴スル當然ノ結果トシテ租稅法ヲ定メ其ノ稅
法ノ効力一年ヲ限リトス我國ノ如ク租稅ハ法律ヲ以テ前以テ特定シ置キ年々ノ豫算ヲ以テ議定セサル
主義トハ大ニ異ナレリ

第六十四條、國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ
豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ
承諾ヲ求ムルヲ要ス

本條規定スル處分チテ二項トス第一項ニ於テ國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘ
キコトヲ規定シ第二項ニ於テハ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルルハ后日帝國議會
ノ承諾ヲ求ムヘキコトヲ定メタリ然シテ第一項ニ於テハ單ニ豫算ハ毎年帝國議會ノ協贊云々ト規定シア
ルノミニシテ別ニ裁可ヲ要スルト云フコトニ反ハス故ニ或ル人ハ豫算ハ議會是レヲ議決スル時ハ裁可ヲ
俟タスシテ政府ハ是レニ遵奉スヘシト論スル者アレハ是レ吾輩ノ取ラサル解釋ナリ何ヲ以テカ是レヲ
云フ日ハク第一協贊ナル語ハ其后裁可ヲ必要トスルコトヲ意味シ單ニ國會ノ議決ノミニテハ效力ヲ生セ
サルヲ文字自然ノ意味ナリトス第二我國體及ヒ憲法ノ主意ハ天皇ヲ以テ主權者トナシ國會ハ統治機關
ニ過キサル故ニ其議決ノミヲ以テ行政官遵由ノ義務ヲ負フニ至ルコトハ大ナル誤ナリ故ニ明文是レヲ規
定スルコトナシト雖モ必ス裁可ヲ必要トスルナリ

豫算及ヒ其性質 帝國議會ハ豫算ヲ議決スル權ヲ有ス豫算トハ國庫ノ毎年ノ收入支出ヲ豫メ計算スルモノナリ國庫ト云フキハ自治体等ノ豫算ニアラサルコトヲ意味シ毎年ト云フハ會計法ニ定ムル會計年度ヲ意味ス豫算ハ其ノ實質ヨリ云フキハ財政ノ見積リナリ其形式ノ效力ヨリ云ヘハ行政官カ國庫ノ收入ヲナスニ當リテ遵由スヘキ標準タリ其ノ準則タル性質ハ法律ニアラス命令ニアラス大權ヲ以テ行政部ニ示ス處ノ訓示ナリ然シテ憲法ノ定ムル處ニ依リテ大權カ其訓令ヲ行政部ニ與フルニ付キテハ其實質ヲ議會ニ協賛セシムル者ナリ

帝國議會ノ豫算議定權、帝國議會ハ國庫ノ財計豫算ヲ議定スルノ權ヲ有ス豫算ハ法律ニアラス故ニ立法ニ參與スル權ト是レヲ區別ス歐洲諸國ニ於テハ豫算ハ法律ナルヤ否ヤト云フコトハ學者ノ問題ナリ此問題ハ法律ノ意義如何ニヨリ決セラル元來法律ニハ二様ノ意義アリ佛國法獨國法ニ於テハ法律ハ權利義務ノ準則ト云フ意味ナラス三權分立論ノ結果ヨリ其實質ノ何タルニ係ハラス國會ノ意志表示ヲ凡テ法律ト云フ故ニ彼レニアリテハ規則ヲ制定スルモ贈與ヲナスモ功勞ヲ謝スルモ公債ヲ募ルモ凡テ其ノ實質ノ何タルニ係ハラス國會ノ決議ヲ凡テ法律ト云フ然レモ贈與ヲナシ契約ヲ結フハ法律ニアラス實質的ニ法律ト稱スルコトヲ得ス然ルニ三權分立論ノ結果トシテ其政体ヲ採用スル國ニテハ立法院ノ意志ト行政府ノ意志トヲ區別スルノ必要アリ故ニ何事ニテモ行政府ノナスコトハ行政ト云フ假敕令ヲ發スルモ行政ナリ立法院ノナス事ハ何事ヲナスモ即チ裁判ヲナスモ約束ヲナスモ皆法律ナリ此意味ニ於テ

佛獨ノ國法論トシテ豫算ハ法律ナリト云フハ強テ比難スヘキコトニアラス然レモ其意味ハ豫算ハ國會ノ協賛ヲ經タルモノト云フコトニ止マリ權利義務ノ準則ナリト云フコトハ意味セス

吾憲法ニ於テハ法律トハ法則ノ意味ニ用非形式上亦實質上人ノ行爲ノ標準タル法則モノヲ差シテ法律ト云フナリ然シテ其法則ハ議會ノ協賛ヲ經タルモノト經サルモノトアリ是レヲ區別シテ法律ト云ヒ命令ト云フ故ニ吾憲法ニ於テハ法律ト云フコトヲ議會ノ協賛ト云フコト同一ノ意味ニアラス議會ノ協賛シタル者ノ中ニ法律ニアラサルモノアリ豫算其ノ一ナリ此意味ニ於テ吾々ハ豫算ハ法律ニアラスト云フ亦歐洲獨佛ノ或ル學者ハ豫算ハ實質的ニ法律ナリトテ論スルモノアレモ余輩ハ亦是レヲ取ラサルナリ法律ヲ實質的ニ見ル時ハ一定ノ事實ヲ豫想シテ是レニ供フニ一定ノ結果ヲ以テシタル者ニシテ國權ノ働キヨリ人ノ行爲ノ標準ヲ定メタルモノナリ然ルニ豫算ハ文字ノ如ク事實ノ豫想ナリ即明年ノ國庫ノ收入ヲ豫想シタル事實ノ豫見ナリ豫算其物ノ性質上法則ニアラス故ニ是レヲ實質的ニモ法則ナリト云フ説明ハ豫算本來ノ觀念ニ違フナリ此ヲ以テ吾憲法上豫算ハ形式的ニモ實質的ニモ法律ニアラスト云フコトヲ辯明シ得ヘシ

尙一步ヲ進メテ論センニ豫算ハ事實ノ豫見ナリトスルナラハ何故ニ議會ノ協賛ヲ必用トス即其ノ立法上政治上ノ理由ヲ探究スルキハ凡ソ一國ノ財政ノ整理ハ今日經濟上最モ必用ナルヤ論ヲ俟タス即一國ノ財政ハ事實ニ制限サレタル一國ノ働キナリ金錢ヲ要セサル國家ノ働キハ豫メ明年ニ必用ナル命令權

ヲ豫測スルコト必用ナラス其金錢ノ出納ヲナス國家ノ働キハ明年度ニ要スル歳出入ヲ豫見シ以テ經濟政策ヲ立ツル必用アリ然シテ政府ノミニテ是ノ見積リハ專行シ得サレモ人民ニ租稅ヲ課スル法律上ノ必用ト政府カ金錢ヲ支出スルニ付キテ果シテ必用ニシテ有益ナル事ニノミ國財ヲ支出スルカヲ監督スルカ爲メニハ國會ヲシテ協賛セシムルカ政治上便宜ナリトス是レヲ以テ豫算其ノモノハ單ニ事實ノ豫想ナレモ其ノ豫想ヲナスニハ統治機關タル政府ト國會トノ見込カ相一致スルコトヲ必用トス之レ單純ナル理由ナリ

國會カ豫算ヲ議定スルハ法律ヲ議定スルニアラス故ニ議定權カ制限セラル即チ法律ハ法律ヲ以テ變更スルコトヲ得故ニ法律案ニ對スル議定權ハ自由ナリ豫算ハ法律ニアラス豫算ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ許サス故ニ豫算ノ議定ハ法律ノ範圍内ニ於テナス可シ換言スレハ法令ニ抵觸セサル限りニ於テ豫算ヲ議定スルノ事由アルナリ法令ハ本ナリ財政ハ未ナリ財務行政ハ法令ヲ執行スルカ爲メニ之ヲ行フ豫算ハ財務行政ノ基礎タルモノナリ故ニ豫算ノ議決ヲ以テ法令ヲ變更スルコトヲ得ス此原則カ大体ニ通スルモノニシテ豫算ハ法律ニアラストノ主義ノ結果ナリ之ヲ精シク云フハ左ノ原則ヲ得ン第一歳出歳入ノ目的及ヒ金額カ法令ニテ定マレルモノハ議會ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
第二歳出歳入ノ目的カ法令ニテ定マルモ其金額カ定マラサルモノハ議會ハ其金額ヲ議定ス
第三歳入出ノ目的及金額共ニ未タ法令ニテ定マラサルモノハ議會ハ目的ノ必用如何ヲ査定シ其ノ金額

ヲ議定ス

事後承諾政府カ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出ヲナシタルハ后ニ議會ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス此ノ事後承諾ノ意義ハ承諾アルハ其效力己往ニ遡リ初メヨリ豫算カ變更セラレタルモノト見做シ政府ノ責任カ解除セラル即チ會計法ニテ行政官カ豫算ノ範圍内ニテ支出ヲナシタルハ會計検査ノ場合ニ責任カ當然解除サル、ナリ若シモ豫算外支出ヲナシタルハ會計検査ニ對シテ當然責任ヲ有ス故ニ議會ニ對シテ事後ノ承諾ヲ求ムルハ豫算ノ追加修正ヲ求ムルト同様ニテ行政官ノ責任ヲ解除スル結果アリ若シモ議會カ承諾ヲ拒ミタルハ行政官ノ處分ハ豫算外ノ處置トナリ會計法ニ依リ會計検査ニ對シテ責任ヲ有スルナリ此ノ會計検査ニ對スル責任ヲ豫メ解除スルコトカ事後承諾ノ效果ナリ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

本條ハ豫算ハ前ニ衆議院へ提出スヘキヲ定メタルモノナリ法律案ハ是レヲ提出スルノ順序ハ一定セズ衆議院ヲ先トスルモ亦后トスルモ只政府ノ意ノ儘ナリ然ルニ豫算ハ必ス前ニ衆議院へ提出スヘキモノトス然シテ茲ニ豫算ト云フハ豫算案ノ意味ナリ前ニトハ貴族院ニ提出セスシテ衆議院ニ提出ス可シトノ意味ニテ後ニ貴族院ニ提出ス可シトノ意味ナラス何トナレハ衆議院議決ノ上直ニ貴族院ニ送附ス可キ者ナレハナリ蓋シ他ノ法律案ハ政府提出ニ係ルトキト雖モ議會ハ全ク是レヲ否決スルヲ得可ク是ヲ否決シタル場合ニハ他ノ院ニ送附スルコトヲ要セスト雖モ豫算ハ全然是レヲ否決スルコト能ハサ

ルモノナル故ニ必ス貴族院ニ送附ス可キモノナレハナリ
何故ニ豫算ニ付キ衆議院ニ先議權ヲ附與シタルヤ元來吾ガ憲法ニ於テハ兩院ヲ以テ同權トナシ其權限
上何等ノ差別ヲモ設ケサルヲ原則トス然ルニ今獨リ豫算案ニ對シテ衆議院ニ先議權ヲ附與スルハ蓋シ
財政ハ國民ノ生活ニ關シ且國民ノ財産ト大ナル關係ヲ有スルガ故ニ國民ノ公撰ニ依レル衆議院ニ此ノ
權利ヲ附與シタルナリ

第六十六條、皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額
ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十四條ハ豫算ハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ經可キヲ定メ而シテ本條ハ皇室經費ノタメ其例外ヲ示ス
モノナリ

皇室經費ハ天皇ノ尊嚴ヲ保ツタメニ欠ク可カラサル經費ヲ供給スル國庫最先ノ義務ナリ而シテ現在ノ
定額トハ憲法ノ效力ヲ生シタル當時ノ額ヲ云フ此ノ三百萬圓ナル定額ニハ議院ハ變更ヲ議スルヲ得ス
只將來ニ於テ増額ヲ要スルハニノミ議會ノ協賛ヲ必用トス蓋シ此ノ經費ハ宮廷ノ事ニ係リ議會ノ容喙
ス可キ事項ニアラス從ツテ議會ノ承諾及ヒ檢査ノ目的トナルコトナシ然シ是レヲ豫算及ヒ決算ニ記載
スルハ只支出總額ノ項目ヲ示スノミニシテ議會ノ議決ヲ要スル爲メニアラサルナリ

第六十七條、憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法

律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同算ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ
削減スルコトヲ得ス

憲法上ノ大權トハ何ソツヤ 憲法上ノ大權トハ君主カ統治機關ノ權限ニ委任セスシテ親裁シテ行フ處
ノ政務ノ範圍ナリ茲ニ憲法上トハ憲法ニ依リテ定メラレタルモノナルヲ意味ス大權ト大權ニアラサ
ルモノ、區別ハ單ニ憲法ノ法文ヨリ出ルノミニシテ國權其モノ、本來ノ區別、アラズ精シク云フハ
立法權モ司法權モ憲法上ト云フ形容詞ヲ付シテ用ユ可キナリ然ナカラ實際上憲法上ノ立法權ト云フカ
如キ名稱ヲ必用トセサルナリ然シテ君主ハ統治權ヲ總攬スルト同時ニ又統治權ノ一部タル大權ヲ行フ
故ニ統治權ト大權トヲ區別スル所以ヲ明カニスル爲メニ特ニ憲法上ノ大權ト云ヒシノミ法理上ハ單ニ
大權ト云ヒテ足レリ

大權ハ統治權ニアラス大權ハ元ヨリ統治權ノ一部ナリ君主ハ己ニ統治權ヲ總攬ス然ラハ何故ニ其一部
分タル大權ヲ有スト特ニ云フ必要アルカ近世立憲政体ニ於テハ統治權ヲ行使スルニ際シ統治機關ヲ設
ケ是レニ一定ノ權限ヲ分配スルヲ通議トス然シテ憲法上ノ統治機關ノ權限ニ委任セスシテ君主カ親
裁スル政務ノ範圍ヲ他ノモノヨリ區別シテ大權ト云フナリ立法權司法權皆統治權ニアラサルハナシ然
ルニ是レヲ區別スル理由ハ憲法上ノ規定ノ上ニ於テ是レヲ行フ機關ヲ異ニスルニ基クナリ
大權ハ君主親裁シテ是レヲ行フ親裁ト云フハ統治機關ノ意志ニ係ハルコトヲ要セス君主單獨ノ意志ニ

テ是レヲ行フ凡ソ君主ガ親裁スル政務ノ範圍ハ是レヲ別舉スルコトヲ得ス何事ニテモ憲法上テ國務シ給
 若クハ裁判所ノ權限ニ委任セラレタル事ノ外ハ天皇親ラ之ヲ獨裁シ得ヘキナリサレト天皇ノ親裁シ給
 フモノ中特ニ憲法第一章ニ天皇之ヲナスト規定シアルモノヲコ、ニ憲法上ノ大權ト稱スルナリ
 此ノ憲法上ノ大權ノ發動ノ結果トシテ當然必要ナル歳出ハ帝國議會カ單獨ニ專斷ニ之ヲ廢除又ハ削減
 スルコトヲ許サス政府ノ同意ヲ先ツ求メサレハ之レヲナシ得サルコトセルナリ是レ天皇ノ大權ヲ發動ヲ
 重シタルヨリ生スルモノナリ又法律執行ノ決果トシテ止ムコトヲ得サル歳出又ハ法律上政府ノ當然負
 擔スヘキモノナル歳出ハ是レ又議會カ專斷ニ廢除削減スルコトヲ許サ、ルナリ本條ノ規定ハ政府ト議
 會トノ間ニ起ルヘキ財政上ノ衝突ノ場合ヲ豫メ定メオキタルモノナリ

**第六十八條、特別ノ須要ニ因リ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊
 ナ求ムルコトヲ得**

國家歳出入ノ豫算ハ毎年其一年度ノ豫算ヲ議會ニ提出スヘク二年三年ヲ越エテ將來ノ豫算ヲ提出スヘ
 キモノニアラサルナリサレト國務ハ日ニ多端ニシテ國家ノ進運ハ日ニ月ニ計營スヘキ事業極メテ多ク
 又タ其事モ愈大ナラシム限リアル一年間ノ歳入ヲ以テ盡ク是ヲ支辨スヘカラス然リト雖モ是ヲ計ラサ
 ルハ亦タ國運ヲ妨クルモノアリ是ニ於テ繼續費ナルモノヲ用ユルナリ豫メ何年間ニ毎年何程支出スヘ
 キカラ定メ之ヲ議會ニ提出シ以後毎年其定額ノ支出ヲナサシムルコトヲ得ルナリ

**第六十九條、避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル
 必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ**

國家毎年ノ歳出入ハ豫算ニ依リテ之ヲ定メ之ニ據リテ出入スルヲ通則トモサレトモ金融界ノ事ハ極メ
 テ變動多キモノナレハ時ニ豫算金額ノ不足ヲ生スルコトナリ保セス又豫算外ニ必要ナル支辨ヲナサ、
 ルヘカラサルコトモ起リ得ヘシ此際ニ若シ豫算以外何等ノ方便モナキハ以テ國家百年ノ國是ヲ誤ルコ
 トアルヘシ是ヲ以テ豫備費ヲ設ケテ此等ノ支出ヲ便ニシタルナリ然レモ本條ノ支出ヲナシタルハ第六
 十四條ノ例ニ倣ヒ後日議會ノ承諾ヲ求ムヘキモノナリトス

**第七十條、公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テハ内外ノ情
 形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルハ勅令ニ依リ財政上必要ノ
 處分ヲナスコトヲ得**

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス
 第一章第八條ニ緊急命令ヲ規定シアリキ是レ本條ノ規定トハ相應スルモノナリ本條ハ緊急ノ財政處分
 トモ曰フヘキモノニシテ緊急勅令ト同法理ニ歸着スサレト彼レハ法律ニシテ此ハ豫算内ノ行政處分タ
 ルニ過キササルヲ以テ例令議會ハ承諾ナシモ是ヲ以テ將來ニ其効力ヲ失フコトヲ公布スルヲ必要トセス
第七十一條、帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルハ政

府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

豫算ハ國家會計ノ大則ナリ豫算ナケレハ以テ國家ノ財政ハ運ハサルナリサレトモ時ニ政府ハ此豫算ヲ得サルコアリ即チ議會成立スル能ハスシテ爲メニ豫算ヲ提出セス從テ議會ノ議決ヲ經ル能ハサルルハ又ハ議會カ未タ豫算ヲ議決スルコナクシテ閉會シタルルハ、又ハ兩院意見ヲ異ニシ且ツ其協議整ハサルルハ、又ハ政府ノ同意ヲ得スシテ第六十七條規定ノ歳出ヲ削減廢除シタルルハ又ハ第六十九條ニ違反シテ豫備費ヲ廢シタルルハ此等ハ皆ナ豫算不成立ノ場合ニシテ此場合ニハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ以テ其年ノ豫算トシ行フノ便宜ヲコ、ニ定メタルナリ

第七十二條、國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ、

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

豫算ハ國家會計ノ豫定ナリ議會ハ國家ノ會計ヲ監督ス依テ豫算ハ是ヲ議會ニテ議決シテ政府ヲシテ之ヲ用ルシメ尙ホ議會ハ會計カ豫算ニ從ヒタルヤ否ヤヲモ監督ス即チ會計決算ノ審査ヲナスナリ會計検査院ハ直接ニ會計検査ノ任ニ當リ政府ハ其審査ヲ經テ尙議會ニ之ヲ提出シテ検査セシムルナリ議會ハ會計決算ニ就テ政府ニ説明ヲ求ムルコトヲ得ルナリ會計検査院ハ直接ニ政府ノ會計ヲ検査スルノ任ニ當ルモノニシテ政府トハ相分離シテ獨立ノ地位ニア

ラサルヘカラサルモノナリ依テ其官制ハ之ヲ勅令ヲ以テ定メスシテ法律ヲ以テ規定スルコトナシタルナリ

第七章 補則

帝國憲法ハ第一章ニ天皇、第二章ニ臣民權利義務、第三章ニ帝國議會、第四章ニ國務大臣及樞密顧問、第五章ニ司法、第六章ニ會計ヲ規定シタリ、天皇ハ統治主体ニシテ臣民ハ客体ナリ、天皇カ臣民ヲ統治シ給フ機關及作用ハ第三、四、五、六章ニ規定サレタルナリ、以上ヲ以テ憲法ノ大綱ヲ盡クセルナリ、サレド第七、七章ニハ原則トシテ帝國憲法及皇室典範ノ改正方法ヲ規定シ合セテ憲法ト法律規則命令トノ關係トヲ規定セリ、

第七十三條、將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此場合ニ於テハ兩議院ハ各其總員三分ノ二以上出席スルニ非ラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス、出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ラサレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

憲法ハ國法ノ大源ナリ、國家ノ基礎ナリ、亂リニ之ヲ變更スルハ國家ノ基礎ヲ動搖セシムルモノニシテ、國運ノ進歩ニ大ナル妨害ヲ與フヘシ、是レヲ以テ是ヲ改ムルニハ極メテ慎重ナルヲ要ス、是レ本條アル所以ナリ、英國ニテハ憲法ト法律トヲ同視シ、普通ノ法律ヲ以テ何時ニテモ憲法ノ條規ヲ改正變更スルコトヲ得レト、我國ニテハ然ラス、改正ノ議案ハ天皇ノ勅命ニ出ツルハ、外何人モ之ヲ提出スヘカラス、勅命モヨリテ

提出サレタル改正案ハ議員三分ノ二以上出席ガケレハ之レヲ議決スルコトヲ得ス、出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ賛成者ナケレハ其改正案ハ議院ヲ通過セス、貴衆兩院トモ本條條規ニヨリテ通過スルハ、初メテ改正サル、モノナリ

第七十四條、皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

皇室典範ハ法律ニモアラス、勅令ニモアラス、シテ皇室内部ノ規定ナリ、其規定ハ臣民ニ直接ノ關係ヲ生セス、爲メニ臣民ノ權利義務ニ變更ヲ生セサルナリ、故ニ之ヲ帝國議會ノ議ニ附スルヲ要ナキナリ、又是ヲ以テ憲法ノ條規ヲ變更スルコトナカラシメタルナリ

第七十五條、憲法及ヒ皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

憲法ノ改正變更ハ極メテ慎重ナラサルヘカラス、ルハ前ニ述ヘタリ、攝政ハ天皇親ラ政ヲナシ能ハサルハ、之ニ代リテ之ヲ行ハセラル、モノナリ、天皇ノ名ニ於テ大政ヲ行フモノニシテ、天皇ト一体ナレトモ、實際上攝政ハ天皇ニアラス、シテ攝政ナリ、若シ攝政ニ此變更ノ權ヲ與フルハ、不測ノ禍ナキヲ保シ難シ、又皇室典範ハ皇室内部ノ規定タレト、其重大ナルコト曰フマテ、モナク、皇位繼承以下各章ノ規定ヲ擅ニ變更スルモノアレハ、是レ國家ノ根本ヲ動搖スルモノナリ、依テ此ノ變更モ是ヲ慎重ニシ、其不測ノ害ナカラシメンカ爲メニ攝政ヲオクノ間ハ之ヲ變更セサルコトナシタルナリ

第七十六條、法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ違由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

憲法發布前ニ於テ布告布達又ハ規則等ノ名稱ヲ以テ法律ト同様ノ規定ヲ發シタルコトアリ此レ等ハ今日ノ法律勅令等ト名ハ異ナリオレト同シク準由ノ効力ヲ有スルモノナルコトヲ明カニシタルナリ若シ此等ニシテ憲法ノ相矛盾セル處アルハ其矛盾セル部分ノミ無効ニシテ他ハ有效ナルナリ

又第二項ハ第六十七條ト同様ノ決果ヲナスヘキコトヲ示シタルナリ説明スルマテモナシ第六十七條ヲ參照スレハ明カナルヘシ

以上帝國憲法ノ條章ヲ逐テ其大要ヲ説明シタリ然レモ此講義ヲ以テ憲法ノ法理ヲ説キ盡クシタルニアラサルナリ尙ホ詳細ニ是ヲ論述セントセハ頗ル大部ノ書冊タルヘク從テ短日月ノ能ク成シ難キ處ナリ今回ノ講義ハ極メテ匆卒ノ際ニ稿シ一部稿スレバ從テ印刷ニ附シタルヲ以テ或ハ前後重複或ハ簡ニ失シタルノ嫌ナキヲ保シ難シ是レ偏ニ讀者ノ宥恕ヲ乞フノミ然レモ讀者沈思熟考セハ此講義ヲ以テモ憲法ノ法理ノ一般ノ觀念ヲ得ルニ足ルヘシ、憲法ノ大体ノ觀念ノ教育家ニ向テ忽ニスヘカラサルモノナルコトハ此講義ノ始メニ之ヲ述ヘタリ然レモ法學ノ事ハ往々ニシテ乾燥無味ニ流レ易ク他學科ト異ナリ興味少ナカルヘシ冀クハ諸士此故ヲ以テ憲法ヲ研究ヲ抛ツコト勿レ機ヲ得ハ余モ再ヒ此レカ研究ヲ諸士ト

共ニセンコトヲ期ス

1-445

明治三十三年七月二十八日印刷
明治三十三年七月三十一日發行



著者

前橋市相生町四十五番地
津久井利行

發行人

東京市神田區南甲賀町八番地
須藤周三郎

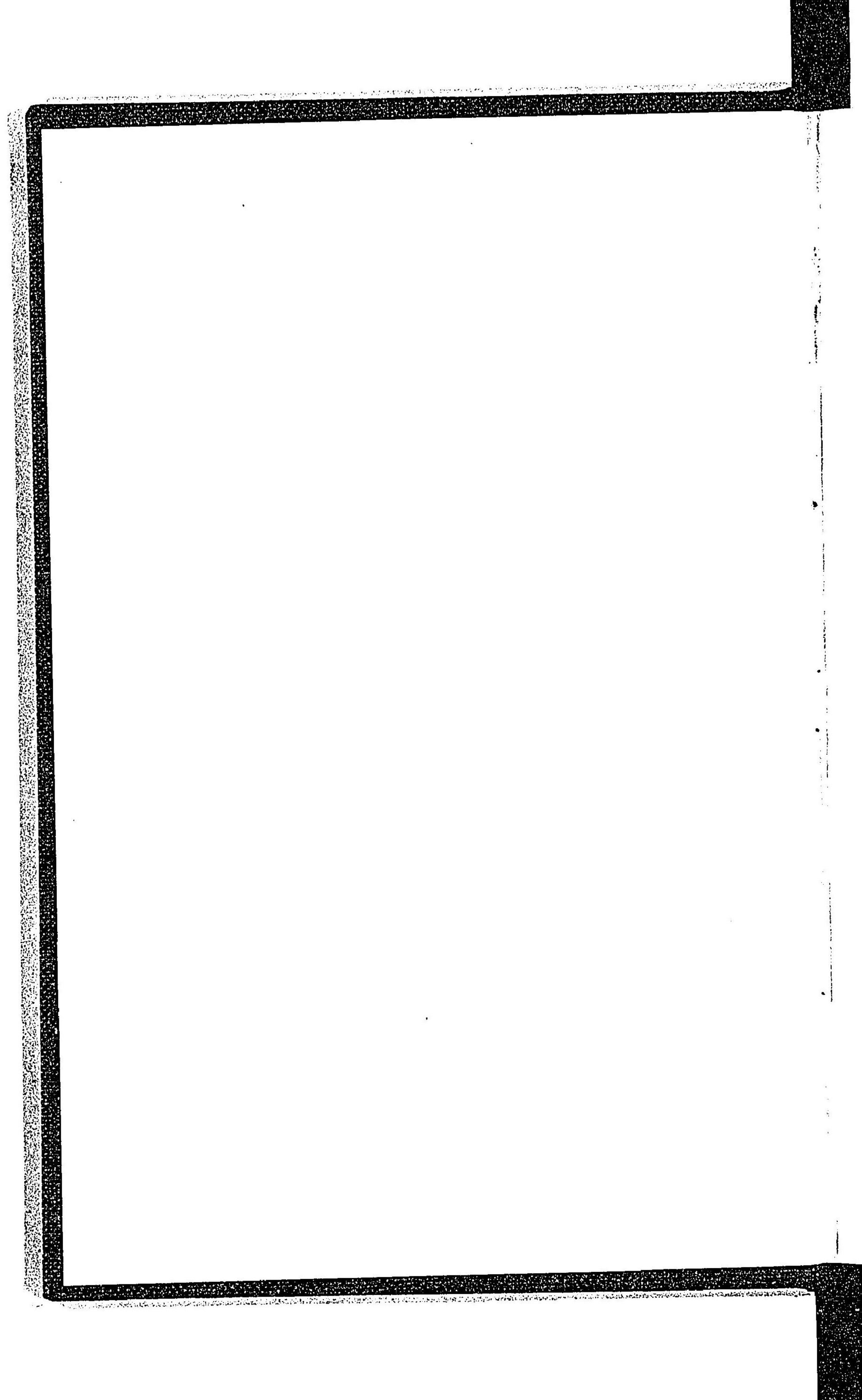
印刷人

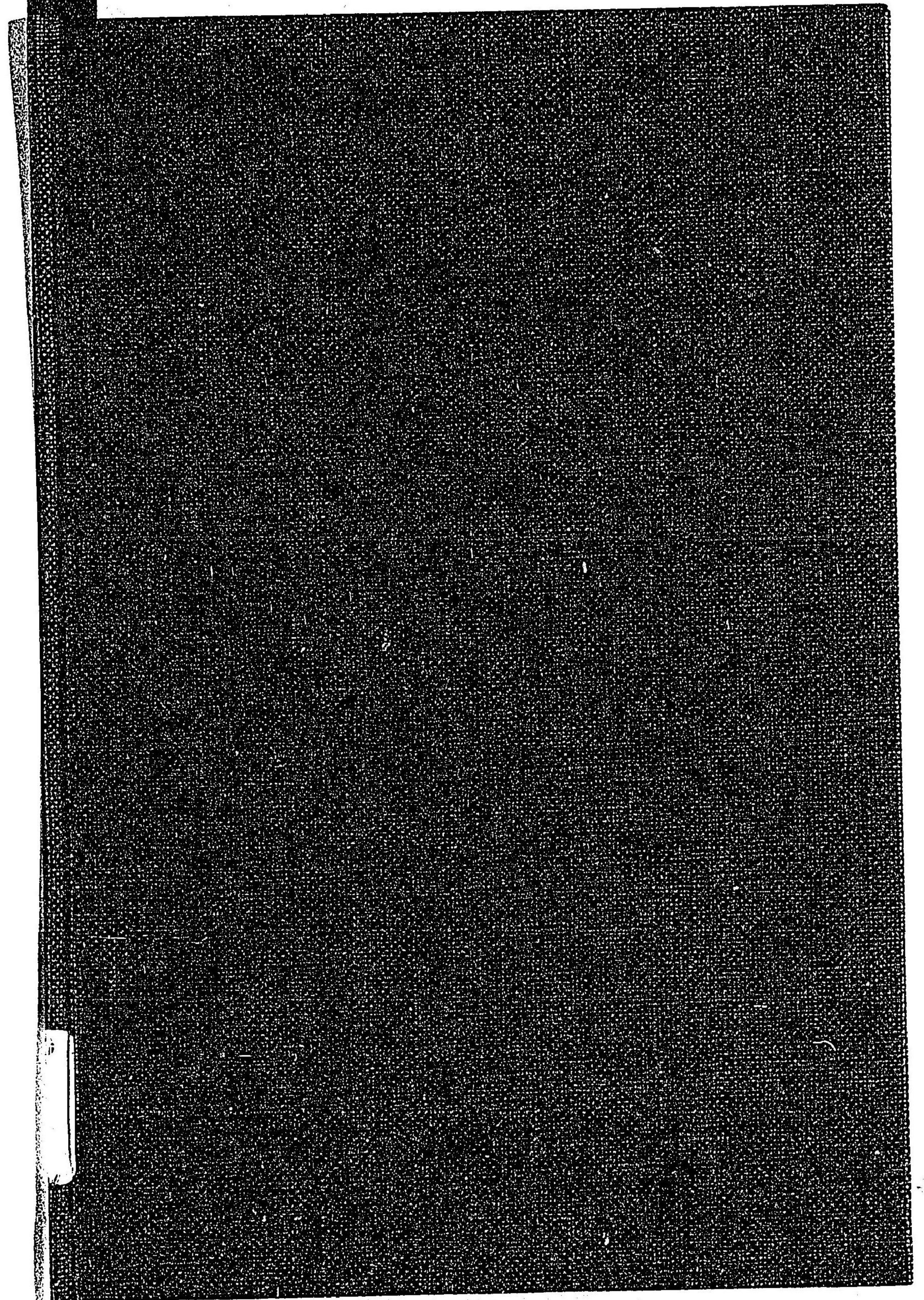
東京市神田區錦町三丁目八番地
八尾活版所
新井豐造

東京市神田區南甲賀町八番地

發賣所

公論社





81
465

031749-000-1

81-465

帝国憲法講義

津久井 利行/述

M33

BBE-0376



